

Ⅱ 各教科編集の概要

国 語

1 編集の具体的方針

- (1) 小学部第1学年には、原典教科書をもとにした点字教科書に加えて、点字の触読に習熟するための点字導入教材「点字を学ぼう」を追加している。編集の具体的内容で詳述するが、点字を使用して学ぶ児童（以下「児童」とする。）等の実態に応じて、活用されたい。〔資料1〕。

各学年の巻数は、大部による児童の負担を軽減することに配慮して、第1・2学年を3冊、第3～6学年を4冊に分冊している。第1学年は、点字学習の導入教材を独立した巻立てとし、第1・2巻を原典の上下巻に対応させている。第2学年は、第1巻が上巻、第2・3巻は下巻を分冊している。第3・4学年は、第1・2巻が上巻、第3・4巻が下巻をそれぞれ分冊している。第5・6学年は原典が1巻であるので、全4巻に分冊している。分冊箇所については以下の通りであるが、編集の基本方針(4)に示された原典のページでも確認できる。

第1学年	(点字導入編 点字を学ぼう)	
	1-1 (上巻)	1-2 (下巻)
第2学年	2-1 (上巻)	
	2-2 (下巻 P1～82)	2-3 (下巻 P83～164)
第3学年	3-1 (上巻 P1～64)	3-2 (上巻 P65～160)
	3-3 (下巻 P1～64)	3-4 (下巻 P65～160)
第4学年	4-1 (上巻 P1～66)	4-2 (上巻 P67～160)
	4-3 (下巻 P1～62)	4-4 (下巻 P63～164)
第5学年	5-1 (P1～81)	5-2 (P82～136)
	5-3 (P137～218)	5-4 (P219～296)
第6学年	6-1 (P1～77)	6-2 (P78～140)
	6-3 (P141～216)	6-4 (P217～310)

なお、原典ページは、児童への周知及び指導者の便宜を意図し、目次の最後に「墨字の教科書のページは、ページ行に⠠⠠⠠⠠のように書いてあります。」と掲載するとともに、各ページ行の左側に挿入した。

- (2) 教材の修正については、児童の生活経験からは理解しにくいもの、または理解の程度や興味・関心の上から修正を加えた方がより理解しやすく、教材への親近感が高まると考えられる場合に限り行う。その上で、できるだけ原典に忠実に点字化するように配慮したが、細かい点では、次のような修正を行った。
- ① 墨字の表記を点字化するにあたっては、点字表記の特性を踏まえて、可能な範囲で対応措置を図った。
 - ② 表・図・グラフ等は、点字表記の可能性と児童の理解度を考慮して、修正したり、削除したりした。したがって、指導の際には、適切な補助教材や説明等で補うなど読解を助けるように配慮する工夫が必要である。またノート例等では、児童自身が実際の学習で筆記できる形式となるように配慮して修正した（例：原典 第5学年 11 ページ、248 ページ 第6学年 33 ページ、254 ページ）。
 - ③ 文字の形、漢字の部首等の教材は、児童の理解度を考慮して、修正を加えた上で必要に応じて点線文字で掲載した。ただし、日常的に漢字を見ることのない点字で学習する児童については、漢字の字形学習はねらいとして設定すべきものではないため、必要最小限にとどめた。（例：原典 第5学年 漢字の音と訓）
 - ④ 地図は、内容を読み取る上で必要なものに限り、修正を加えた上で、点図で掲載した。
 - ⑤ 「右の」、「左記の」、「上の」、「下の」などの表現をそれぞれ「この」、「次の」、「前の」、「後の」などの点字表記の特性に合わせた表現に修正した。
 - ⑥ 「注」は原則として、該当ページの欄外に掲載した。ただし、高学年の読み物題材では文章末に掲載するなど、児童の効率的な学習を期すための工夫を行った。
 - ⑦ 記号等の修正は、読解を助ける場合に限り、原則として原典どおりとした。ただし、中点や逆三角印等を付した箇条書きについては、触読の特性を踏まえた上で全体の構成を理解しやすくするために、番号を付すなどの修正を行った。児童のイラストに吹き出しのついたものは、発言形式であることがわかりやすいよう、名前を付して第1カギで囲んだ。（例：□□なおき□□「ぼくも そう 思います。」）

(3) 国語の正しい理解を促すために、墨字の仮名文字や漢字に関する教材については、その基礎的な知識となるものを選定して掲載した。ただし、指導に当たっては、墨字の習得がねらいとして優先されることのないよう、点字による学習を第一義として扱ってほしい。

① 3年生上巻末(3-2)の「ひらがなとカタカナ」の単元で、墨字のひらがなとカタカナの字形の一覧表を掲載した。これは、「机をコの字の形に並べる」など、日常生活のなかで話題に上りやすく頻繁に用いられる字形の理解を促進するための教材としてあげたものである。よく似た字形を探したり自分の名前を確認したりするなど、児童の興味や実態に合わせて、楽しく触れ、触る負担にならない字形を中心に扱ってほしい。

② 各学年の「漢字の広場」は、該当する漢字部分に第1カギを付けて示し、課題に取り組む際に必要なイラスト部分を言語化して挿入した。しかし、課題の内容上詳細な説明を加えることができないため、説明は必要最小限のものにとどめた。したがって指導に当たっては、課題の意図を踏まえた上で、児童の個々の実態に配慮しつつ工夫をされたい。

③ 「覚えておきたい漢字」は、小学校学年別漢字配当の中から次の基準に沿って92字を選定し、字形も掲載した。2年までの教材で字形が扱われなかったものは、1年2巻、2年1・3巻の巻末に掲載した。

- ・日常生活の中で字形をもとに語られる漢字
- ・部首のもとになる漢字
- ・画数が少なく児童の負担になることのない漢字

④ 各教材の欄外及び教材末の漢字については、2学年までは「読み方が新しい漢字」と表題を付け、例1のように示した。3学年からはさらに「新しく学習する漢字」と「特別な読み方をする言葉」を加え、欄外掲載の語句をもとにそれぞれ例2、例3のように示した。このときの音および訓の掲載順は巻末の「この本で習う漢字」の掲載順とした。また、漢字の訓を示す場合、送り仮名は第2つなぎ符を用いて示した。

例1 「読み方が新しい漢字」〔原典 第2学年上〕

「おん」どく (おと)

例2 「新しく学習する漢字」〔原典 第3学年上〕

「ひら」く (かい ひら^{三三}く ひら^{三三}ける あ^{三三}く あ^{三三}ける) 「かい」てん 「かい」
かい みちが 「ひら」ける ふたが 「あ」く ドアを 「あ」ける。

例3 「特別な読み方をする言葉」〔原典 第3学年上〕

「けさ」(こん いま、あさ)

(4) 点字表記に関する新出事項は、該当の各教材末に掲載した。さらに第1学年から第5学年の各巻末には点字ドリルを掲載し、点字表記法に習熟するための教材とした(3 参考資料 資料2)。

(5) 原典教科書では、歴史的仮名遣いの読み方は小書きで掲載され、音読する際には小書きの音を読むようになっている。しかし、歴史的仮名遣いに続けて小書きの現代仮名遣いを併記した場合、児童の触読には困難さをもとなう。そのため、教材のねらいや児童の学習段階に合わせ、歴史的仮名遣いと現代仮名遣いでの表記を全文掲載したり、脚注で示したりなどした。

(6) 表現課題などで字数制限があるものについては、一応の目安として、普通文字200字を点字32マス11行と対応させた。

例 400字(原典)→点字32マス22行(400字)

(7) ローマ字については、第4学年から第6学年に資料を再掲した。また、ローマ字アルファベットの墨字の字形は第3学年上巻(3-2)に掲載してあるが、これも墨字の字形の習得がねらいとして優先されることのないよう十分な配慮が必要である。

(8) 教材として添えられているQRコードについては、視覚的な内容が中心となった資料や情報であること、閲覧しなくても学習の目標が達成できること、ホームページのアドレス等を情報処理の点字記号で掲載することは児童にとって負担になること等を考慮して、割愛した。

2 編集の具体的内容

具体的な修正内容のうち、特記すべきものは以下のとおりである。

(1) 大幅な差し替えや、レイアウト上の工夫を行った箇所については、「3 参考資料 資料3」に掲載した。また、この編集資料における修正内容の表記については、原典が分かち書きをしている2年上巻までを、分かち書きも含め、長音符号や仮名遣いなど、点字表記に近い形で表した。

(2) 第1学年には、原典にはない「点字導入編 点字を学ぼう」を追加してある。指導に当たっては、個々の児童の実態を十分に把握した上で、点字習熟に向け指導することが大切である。後掲の「3 参考資料 資料1」を参照しながら、具体的な指導に当たってほしい。

また、改訂前までに掲載していた縦半マスの合成により一マスを認識する教材を削除し、当初から一マス6点を一つの単位として認識することを意図した導入教材とした。そのうえで、指先の上下動を排除して真横に指をなめらかにすべらせる行たどりを習得するための教材、読むことを楽しむための教材を追加した。点字を使用して学ぶ児童等の実態に応じて、活用されたい。

また、点字教科書製本の都合上、ページを開けた際に書面が平面とはなりにくくなっている。入門期には、平らで適度な堅さの面に置かれた点字用紙で学ぶことが最も望ましい。対象児童の様子を十分観察しながら、必要に応じて同様の教材を作成したり、行間やマスを空けるなどの工夫及び指導の工夫をしたりすることが必要である。重複障害の児童生徒や中途視覚障害者への点字導入に際しても、同様の工夫を期待する。

なお、P1～P28までは触読の初心であることに配慮し、上下の行の干渉を避けるために行間を9mmに広げている。

一般的留意事項としては、以下のとおりである。

- ① 当初から両手読みの指導を重視する。
- ② 行の上に両手指を置き、両手の人差し指を軽く接触させることを基本にする。
- ③ 指先を立てずに、指先の腹をつかう。その際、強く押しつけすぎないように留意する。
- ④ 指先の腹で一マスの6点を同時に認識し、上下の指の動きをできるだけ排除して真横になめらかに指を移動できるような動きを確立させることを目指す。
- ⑤ 行たどり、行替えの動作の指導を大切にし、両手の分業へとつなげられるようにする。
- ⑥ 点の位置の弁別学習を十分に行い、点字の1マスの枠組みが理解できるようにつとめ、安易に文字としての指導に進まないように留意する。
- ⑦ 点字の読み学習をとおして、「あったよ。」「いっしょだね。」「どっちかな。」「これも同じ形だよ。」などと教師や友達と楽しく会話しながら、言葉も育てていけるような配慮を期待する。

学年	ページ	行	修正事項	修正内容	備考
1上	1		修正	「いいてんき」 (扉の絵のうち、きのこ、小鳥の点図をいれた。)	編集の具体的方針(2)による。
	10		修正	「おはなし たのしいな」 (挿絵を次のように修正) いろいろな おはなし 「1ねんせいに なったら」 「ぐりと ぐら」 「1ねん 1くみの 1にち」 「とのさま 1ねんせい」 「さくら」 「おおかみと 7ひきの こやぎ」	編集の具体的方針(2)による。
	12		修正	「あつまって はなそう」 (挿絵を次のように修正) すきな どうぶつ いぬ ねこ ライオン ぞう パンダ	編集の具体的方針(2)による。
	14		修正	「せんせいに あわせて いって みましょう。」 (P14の詩は削除し、P15の詩は下記のように修正) あしわ ペったん せなかわ ぴん おなかと せなかに ぐー ひとつ じゅんぴが できた さあ かこー	編集の具体的方針(2)による。
	16		修正	「どうぞ よろしく」 (挿絵のカードを次のように修正) カードを こーかん しましよー。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">1ねん 1くみ たにむら けん</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">1ねん 1くみ むらかみ そーし</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px 0;">1ねん 1くみ はまだ あい</div>	編集の具体的方針(2)による。
	18		修正	「なんて いおうかな」 (挿絵を次のように修正) あさ きょーしつに はいりました なんて いおーかな きょーしつで せんせいに あてられました なんて いおーかな	編集の具体的方針(2)による。

1上			<p>しょくいんしつに いきました なんて いおーかな</p> <p>ほけんしつに けがを した ともだちを つれて いきました なんて いおーかな</p> <p>ともだちが ころびました なんて いおーかな</p> <p>ともだちが おもい ばけつを もって います なんて いおーかな</p> <p>ともだちを あそびに さそいたいなど おもいました なんて いおーかな</p> <p>ともだちが ぼーるで あそんで います なんて いおーかな</p> <p>かえりの あいさつを しました なんて いおーかな</p>	
20		修正	<p>「こんなもの みつけたよ」 (挿絵を次のように修正) りく「おんがくしつに、 おおきな たいこが あり ました。たたいて みたいですよ。」 かなこ「としょかんに、 ほんが たくさん あり ました。びっくり しました。」 りく「こーちよーしつに、 こーちよー せんせい が いました。やさしい こえでした。」 かなこ「りかしつに、 ほねの もけいが ありま した。どきどき しました。」 りく「かだんに、 チューリップが さいて いま した。さわって みました。」 かなこ「たいいくかんに、 とびばこが ありまし た。とべるように なりたいですよ。」</p>	編集の具体的方針(2)による。
22		修正	<p>「うたに あわせて あいうえお」 (太陽を点図で挿入)</p>	編集の具体的方針(2)による。
28		修正	<p>「ききたいな、ともだちの はなし」 (挿絵を次のように修正) すきな あそびを きいて みましょー。 こーき「ぼくわ、おにごっこが すきだよ。」 ゆい「わたしも すきだよ。」</p> <p>みんなに しらせましょー。 ゆい「むらた さんが すきな あそびわ、おにご っこです。こんど、いっしょに おにごっこを した いと おもいます。」</p>	編集の具体的方針(2)による。

1 上	30	修正	<p>「たのしいな、ことば あそび」 (挿絵を次のように修正)</p> <p>あ い う か あり あしか あいさつ いし いか いす いるか いんこ いのしし うし うきわ うめぼし かめ からす かたつむり</p>	編集の具体的方針(2)による。
	40	修正	<p>「としょかんへ いこう」 (挿絵を削除し、書名は第1カギで囲んで「ほんのれい」に掲載し、本文は次のように修正)</p> <p>としょかんわ、ほんを たのしむ ことが できる ところでは。</p> <p>ともや「ここに えほんが あるよ。」 りほ「たくさん あるね。」 ゆーと「もとの たなに もどそー。」 せんせい「みんなの ほんです。ていねいに めく りましょー。」</p> <p>ほんの れい 「キャベツくん」 「かいじゅーたちの いる ところ」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	43	修正	<p>「かきと かぎ」 (清音の語と濁音の語の組は挿絵を削除し、各組ごとに 棒線でつなげて掲載)</p> <p>さる — ざる かき — かぎ こま — ごま ふた — ぶた</p>	編集の具体的方針(2)による。
	44	追加	<p>「ぶんを つくろう」(次の文を追加)</p> <p>ぶんの かきはじめわ ふたマス あけましょー。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	46	修正	<p>「ねこと ねっこ」 (清音の語と促音の語の組は挿絵を削除し、次のよう に修正)</p> <p>ねこ — ねっこ きつね — きてて はらっぱ いっしょ てっぺん しっぱ ばったわ、むしです。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	48	修正	<p>「わけを はなそう」 (挿絵を削除し、次のように修正)</p> <p>わけを はなそー わたしは、 よろこんで います。 ないて います。</p> <p>どーしてかと いうと、 あさがおの ふたばが でたからです。 さくひんを ほめられたからです。 いしに つまずいて ころんだからです。 いぬに ほえられたからです。</p>	編集の具体的方針(2)による。

1 上	50		<p>修正 「おばさんと おばあさん」 (同列の長音の語の組は挿絵を削除し、各組ごとに棒線でつなげて掲載) おかあさん — おばあさん おにいさん — おじいさん すーじ — ゆーやけ おねえさん おとーさん — いもーと — おとーと — ろーそく</p>	編集の具体的方針(2)による。
	52～59		修正 「くちばし」(きつつき、おうむ、はちどりのくちばしを点図で挿入、写真は削除)	編集の具体的方針(2)による。
	64		修正 「あいうえおで あそぼう」 (「しりとりをしましょう」では右向き矢印を使ってつながりを示し、文字を列挙) 「さんかく しかく」は数符を使うため、「さんすう しりとり」に修正	編集の具体的方針(2)による。
	66		修正 「おおきく なった」 (あさがおの観察カードを点線枠で閉じた) かんさつ かーど 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 5がつ 29にち はっぱが おおきく なった とみた りか はっぱの おおきさわ、わたしの てと おなじくらいです。さわると、ちくちく します。 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 かんさつ かーど 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 6がつ 29にち つぼみが でて きた きくち たくや かず — ふたつ。 かたち — とがって いる。 いろ — さきが すこし あかい。 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	78		修正 「おおきな かぶ」 おはなしを、みんなで たのしみましょー。 (絵を削除し、次のように修正) 1. やくを きめて よもー なれーたー (りか) 「おじいさんが、かぶの たねを まきました。」 おじいさん (こーき) 「あまい あまい かぶになれ。」 2. うごきながら こえに だそー おばあさん (ゆい) 「(かぶをひっぱって) うんとこしょ、どっこいしょ。」	編集の具体的方針(2)による。

1 上	80	追加	<p>「わ」「を」「え」をつかおう (単元末に次の分かち書き教材を追加) わかちがきに きを つけましょー。 わたしわ 1ねんせいです。 はなわ きれいです。 と いう ぶんを わたしわ1ねんせいです。 はなわきれいです。 のよーに つづけて かいてわ いけません。</p> <p>つぎの ぶんを ただしく かきましょー。 えきえおとーさんをむかえにいきます。 へやのなかえはいります。</p>	編集の具体的方針(2)(3)による。
	94	修正	<p>「としょかんと なかよし」 (絵を削除し、書名は第1カギで囲んで「ほんの れい」に掲載し、本文は次のように修正し、例を点線枠で閉じた。) としょかんで、よみたい ほんを みつけましょー。 ー。 りほ「どんな おはなしかな。」 ともや「だいめいが おもしろいね。」 かなた「かぶとむしの ほんわ ありますか。」</p> <p>ひょーしを よんで みましょー。 ほんを よんだり、よんで もらったり したら、 だいめいや ひづけを かいて おきましょー。 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>1. よんだ ひ 2. だいめい 3. おもしろかった するし (まるの かず)</p> <p>1. 7がつ みっか 2. まゆと うりんこ 3. 2じゅーまる</p> <p>1. 7がつ なのか 2. てぶくろ 3. まる</p> <p>・・・ 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>ほんの れい 「もけら もけら」 「あさに なったので まどを あけますよ」 「ハンタイ おばけ」 「うさぎと かめ」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	102	修正	<p>「たのしいな、ことばあそび」 (挿絵を削除し、3×3と4×4のマスを点図で挿入)</p>	編集の具体的方針(2)による。

1 上	112		修正	「かたかなを みつけよう」 (挿絵を削除し、次のように修正) つぎの ことばも かたかなで かきます。 ボール スコップ ランドセル ジャングル ジム	編集の具体的方針(2)による。
	120		修正 追加	「かずと かんじ」 (数え方にお金の数え方を追加し、一から十の漢数字を点線文字で挿入) 一 二 三 四 五 六 七 八 九 十 (挿絵を削除し、おりがみ、りんご、えんぴつ、ニンジン、ほん、くるま、おにぎりの数え方を入れた。)	編集の具体的方針(2)(3)による。 *漢字の字形(10字)
	124		削除	「よこがきの かきかた」	編集の具体的方針(2)による。
1 下	18		削除 修正	「しらせたいな、みせたいな」 「えと」、吹き出しの「えからせんをひいて」は削除 (モルモットのもこの説明を、次のように文章化) いろ、かたち、おおきさ、さわった かんじ、うごきの とくちよーを かきましょー。 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 モルモットの もこ しろと ちゃいろと くの ふわふわ した け もぐもぐ たべる まるくて くのい め はなの まわりの ながい ひげ 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	21		削除 修正	「まちがいを なおそう」 (挿絵とカードのイラストを削除し、本文中の「おおきな」を「おーきな」とする。)	編集の具体的方針(2)による。
	24		修正	「かん字のはなし」 山 水 雨 上 下 (点図と点線文字で挿入) 日 火 田 川 竹 月 (点線文字で挿入)	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(11字)
	28		修正	「じどう車くらべ」 (セダン型乗用車の点図を入れ、ノート例を次のように修正) 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 バスや じょーよーしゃ (1) しごと — ひとを のせて はこぶ しごと を して います。 その ために、 (2) つくり — <input type="text"/> 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	32				

1 下	34	修正	<p>「じどう車ずかんを つくろう」 (ノート例を次のように修正)</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>きゅーきゅーしゃ</p> <p>1. しごと</p> <p>(1) けがをした ひとや びよーきの ひとをはこぶ。</p> <p>(2) いそいで はしる。</p> <p>2. つくり</p> <p>(1) うごかせる ベッドが ある。</p> <p>(2) うんてんせきの うしろが ひろい。</p> <p>(3) サイレン</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	36	修正	<p>「かたかなを かこう」 (挿絵を削除し、次のようにした)</p> <p>カタカナを かこー</p> <p>すみじの ぶんにわ, ひらがなの ほかに カタカナが つかわれて います。</p> <p>つぎの ことばわ, カタカナで かきます。</p> <p>バス トラック タイヤ クレーン ノート</p> <p>(1) のぼす おんの 書きかたに 気をつけましょー。</p> <p>ソース ケーキ シート ベルト ホース カヌー</p> <p>(2) つぎの ことばにわ, すみじで 小さく かく かたかなが あります。</p> <p>ヘルメット ロケット キャンプ ニュース ショベルカー</p>	編集の具体的方針(3)による。
55	42	修正	<p>「むかしばなしを よもう」 (挿絵を次のように修正)</p> <p>「じゃくと まめの木」 「きたかぜと たいよー」 「しらゆきひめ」 「ライオンと ネズミ」 「ブレーメンの おんがくたい」 「ながぐつを はいた ねこ」 (おはなしカードを次のように修正)</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>「おはなし カード」</p> <p>1. ほんの だいめい 「おかゆの おなべ」</p> <p>2. おはなしに 出て くる 人や どーぶつ おんなのこと おかあさんと, おばあさんが できて きます。</p> <p>3. すきな ところや, おもしろかった ところ まちの なかが おかゆだらけに なる ところが, おもしろいです。</p> <p>4. じぶんの なまえ なかはら ともや</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p>	編集の具体的方針(2)による。

1下	60	修正	<p>「ものの 名まえ」 (お店屋さんごっこの様子を次のように修正)</p> <p>はなの おみせ うって いる もの — ひまわり, ゆり, きく, らん, すいせん, あじさい, ばら</p>	編集の具体的方針(2)による。
	72	修正	<p>「こんにちわ。」 「いらっしゃい。」</p> <p>□のおみせ うって いる もの — バナナ, イチゴ, りんご, みかん 「りんごを ひとつ ください。」 「ありがとー ございます。」</p> <p>がっきの おみせ うって いる もの — トライアングル, たいこ, てっきん, カスタネット, すず, ピアノ, タンブリン, もっきん 「ピアノわ ありますか。」 「はい, あります。」</p> <p>□のおみせ うって いる もの — あじ, さんま, ひらめ, たい 「あじを ください。」 「はい。 1びきで いいですか。」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	64	修正	<p>「日づけと よう日」 日 月 火 水 木 金 土 (点線文字で挿入)</p>	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(7字)
	72	修正	<p>「たのしいな, ことば あそび」 (挿絵を削除し, 本文中の「うえに」を「まえに」 「したに」を「うしろに」とする。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	84~85	削除 修正	<p>「たぬきの 糸車」 (挿絵を削除し, 文章化)</p> <p>(1) たぬきが やぶれ しょーじの あなからのぞいて いる ところ (2) たぬきが わなに かかっている ところ (3) たぬきが じょーずな 手つきで, 糸をつむいで いる ところ (4) たぬきが ぴよんぴよこ おどりながらかえって いく ところ (「文にあうように, えをかきます。」の文と吹き出しを削除し, 「えを見せながらよみ, 」を「くふうしてよみ, 」とする。)</p>	編集の具体的方針(2)による。

1 下	86～87		<p>修正 「かたかなの かたち」 (次のようにひらがなとカタカナを点線文字で挿入)</p> <p>(1) かたかなと ひらがな</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">てんじ</td> <td style="text-align: center;">カタカナ</td> <td style="text-align: center;">ひらがな</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「か」</td> <td style="text-align: center;">カ</td> <td style="text-align: center;">か</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「き」</td> <td style="text-align: center;">キ</td> <td style="text-align: center;">き</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「せ」</td> <td style="text-align: center;">セ</td> <td style="text-align: center;">せ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「も」</td> <td style="text-align: center;">モ</td> <td style="text-align: center;">も</td> </tr> </table>	てんじ	カタカナ	ひらがな	「か」	カ	か	「き」	キ	き	「せ」	セ	せ	「も」	モ	も	<p>編集の具体的方針(2)(3)による。</p> <p>*カタカナ・ひらがなの墨字の字形については、字形の習得がねらいではないことに配慮する。</p>	
てんじ	カタカナ	ひらがな																		
「か」	カ	か																		
「き」	キ	き																		
「せ」	セ	せ																		
「も」	モ	も																		
	86～87		<p>修正 (2) かたかなと かたかな</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">「ン」</td> <td style="text-align: center;">ン</td> <td style="text-align: center;">「ソ」</td> <td style="text-align: center;">ソ</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「マ」</td> <td style="text-align: center;">マ</td> <td style="text-align: center;">「ア」</td> <td style="text-align: center;">ア</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「ヌ」</td> <td style="text-align: center;">ヌ</td> <td style="text-align: center;">「ス」</td> <td style="text-align: center;">ス</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">「ツ」</td> <td style="text-align: center;">ツ</td> <td style="text-align: center;">「シ」</td> <td style="text-align: center;">シ</td> </tr> </table> <p>(かたちに気をつけてかきましょう。を次のように修正)</p> <p>つぎの ことばも かたかなで かきます。</p> <p>ネクタイ シャワー マフラー オルガン テーブル ミシン コーヒー ソース アイロン パン マラソン シーツ</p>	「ン」	ン	「ソ」	ソ	「マ」	マ	「ア」	ア	「ヌ」	ヌ	「ス」	ス	「ツ」	ツ	「シ」	シ	
「ン」	ン	「ソ」	ソ																	
「マ」	マ	「ア」	ア																	
「ヌ」	ヌ	「ス」	ス																	
「ツ」	ツ	「シ」	シ																	
86	3	削除	<p>ふるくの、「ひらがなとかたかな」を見て、にているかたちの字をさがしましょう。</p>	<p>編集の具体的方針(2)(3)による。</p>																
90～91		修正	<p>(吹き出しを次のように修正)</p> <p>りか「あしかの なかにわ、しかが いる。」</p> <p>たくや「あしも かくれて いるよ。」</p> <p>ゆい「あしだと、『あしが ある。』になるね。」</p>	<p>編集の具体的方針(2)による。</p>																
99		修正 削除	<p>「どうぶつの 赤ちゃん」 (本の写真は削除し、文を次のように修正)</p> <p>3. パンダ、キリン、ペンギン、ゴリラなど、ほかの どうぶつの 赤ちゃんの 本を よんで、わかった ことを ともだちに しらせましょー。</p> <p>(該当) ページの カンガルーの 赤ちゃんに ついて、しらせても いいですね。</p> <p>くらべて よむと、なにが ちがうのかが よく わかります。</p>	<p>編集の具体的方針(2)による。</p>																
103		修正	<p>「これは、なんでしょう」 (カードを次のように修正)</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>とけい まるい。 すーじが かいて ある。 いつも うごいて いる。 じかんが わかる。 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p>	<p>編集の具体的方針(2)による。</p>																

1下	116		修正	「ずうっと、ずっと、大すきだよ」 (本文中の「ぼくが、エルフのことが大すきだとわかるところに、せんをひきましよう。」を「ぼくが、エルフのことが大すきだとわかるところをさがましよう。」に修正)	編集の具体的方針(2)による。
	118～ 119		修正	「にて いる かん字」 (課題文を修正し、各漢字は読みと点線文字で掲載) 1. つぎの ぶんの 「・・・」の ところわ、 かたちの よく にた かんじです。 「かい」を 「み」つける。 「むら」の おくに 「はやし」が ある。 「みぎ」あしで 「いし」を ける。 「ひと」が 「はい」って くる。 「がっ」こーで も「じ」を ならう。 「みぎ」を みて、「ひだり」を みる。 「つち」を もり「あ」げる。 2. にて いる かんじ 貝 見 村 林 右 石 人 入 学 字 右 左 土 上	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(14字)
	122	下欄	修正	「いい こと いっぱい、一年生」 (下段の内容を以下のように修正) つぎの じゅんに かきましょー。 (1) だいめい (2) どんな いい ことが あったか (3) くわしく おもいだした こと ア. した こと イ. いった こと ウ. いわれた こと (4) おもった こと	編集の具体的方針(2)による。
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」 (1年生配当漢字の中から次の漢字を点線文字で掲載) 大 犬	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(2字)

2上	11	下12	削除	(次の文を削除) こえを出さないで、手のうごきなどをつかってならぶ。	編集の具体的方針(2)による。
	27	上段	修正	ノートの例 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 1. 読んだ日 — 4月 とおか 2. だいめい — 「はるねこ」 3. 書いた人 — かの ゆうこ 4. おもしろかったしるし — 2じゅうまる 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。

2 上	28～29		削除 修正	<p>「図書館たんけん」 (図を削除し、文章化)</p> <p>「しぜん」のたなの前で あや「しぜんのたなに、こん虫の本がならんでい る。」 しゅん「おりがみのおり方の本はどこかな。」</p> <p>「4 がつのおすすめ」のコーナーの前で まりな「どんな本があるのかな。」 「しゃかい」のたなの横にあるカウンターの前で ゆうき「ねこがのっているずかんはどこにあります か。」</p>	<p>編集の具体的方針(2)によ る。</p> <p>※実際に学校の図書室を使 用する等教材の目標にあっ た指導となるよう配慮して ほしい。</p>
	30～31		削除 修正	<p>「春がいっぱい」 (挿絵を削除し、挿絵の言葉を列挙。最後に、ちょ う、つくし、すみれの点図を挿入)</p>	<p>編集の具体的方針(2)によ る。</p>
	34	上 8	修正	<p>「ともだちをさがそう」 (「絵を見て話そう」を「どんな人がいるかかんがえ て話そう」, 「…どんな人がいますか。その…」を 「どんな人がいるか考えて、その」に修正)</p>	<p>編集の具体的方針(2)によ る。</p> <p>※「大事なことを落とさず に、話したり聞いたりする (話す・聞く)教材とし て、絵の中から指示通りの 対象を探し出す過程は削除 した。指導にあたっては、 教材の意図をより効果的に 児童に伝えるために、適切 な触察教材等を指示どおり に探し出すなど代替的に指 導の工夫をすることが望ま しい。</p>
		下 5	修正	<p>(「絵を見て話す。」を「伝えるために大切な内容を 考えて話す。」に修正)</p>	
	35		削除	<p>(絵を削除)</p>	
	36	上 5 下段	削除 追加	<p>(「35 ページの絵の中から」を削除) (メモの前に「まなさん のメモ」を追加。メモの中に「白いぼうし リュック サック」を追加)</p>	
	37	上 1	修正	<p>(「絵の中のほかの子どもを選んで」を「ほかの子ど もについて、自分で考えて」に修正)</p>	
		下段	修正 削除 修正	<p>(「雨(あめ)」を「ふる「あめ」」に修正) (「ひらがなで書くと」を削除) (イラストを文章化) 次の例も考えてみましょう。 わたる「はし」 食べるときに使う「はし」</p> <p>たてものの「しろ」 いろの「しろ」</p>	
40		削除 修正	<p>「この本読もう」 (絵を削除し、書名を第一カギで、都道府県名を北か ら順に第一カッコで囲んで掲載)</p>	<p>編集の具体的方針(2)によ る。</p>	
41～47		削除 修正	<p>「たんぼぼのちえ」 (絵を削除し、タンポポの花、拡がった綿毛、すぼん だ綿毛の点図を挿入)</p>	<p>編集の具体的方針(2)によ る。</p>	

2上	53	上段	修正	「かんさつ名人になろう」 (ミニトマトのメモの前に、「メモの例」と表題を付けた)	編集の具体的方針(2)による。
	55		修正	「メモを見ながら」を「読みながら」に修正 (観察記録の前に、「観察記録 ミニトマト」と表題を付けた。欄外の注意事項は観察記録の前に掲載)	
	58		修正	「同じぶぶんをもつ漢字」 (絵を削除し、漢字を読みと点線文字で掲載。「絵の中のかん字を見て」を「次の漢字で」に修正) き はやし もり 木 林 森 むら やす_む 村 休 ほん 本	編集の具体的方針(2)による。 *漢字の字形(6字)
	59		修正	(問題文を次のように修正) 「次の「…」をつけた部分は、形がよく似たかん字です。」 (漢字を読みと点線文字で掲載) がく じ いま かい かたな き_れる 学 字 今 会 刀 切	編集の具体的方針(3)による。 *漢字の字形(6字)
	62		修正	「かん字のひろば1」〔資料2-1〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	64~73		修正	「スイミー」 (絵を削除し、「まぐろに追われているスイミー」と「大きな魚のふりをしたスイミー」の点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	77		修正	「かたかなのひろば」〔資料2-2〕	編集の具体的方針(2)による。
	78		修正	「メモをとるとき」 (絵を削除し、次のように文章化) ゆうやくんは町たんけんでパンやにいきました。 ゆうや「どうぶつの形のパンがある。」 ゆうや「みんなに知らせたいな。」 ゆうやくんはメモをとりました。 そして、次の日、ゆうやくんはメモを使いながらクラスみんなの前ではっぴょうをしました。 ゆうや「くまとうさぎの形のパンがありました。」 「絵もかいておくと、見たものようすがあとからでも分かるね。」を削除した。	編集の具体的方針(2)による。
79	上6 下6	削除 修正	「見かえして」を「読みかえして」に修正		

2上	81		修正	<p>メモのれい</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>(なにをみつけたか)</p> <p>きれいな花がさいている木</p> <p>(どこでみつけたか)</p> <p>くじらこうえん</p> <p>ブランコの後ろ</p> <p>(どんなものか — 大きさ, 形, 色, 数, さわったかんじ, においなど)</p> <p>木のみき — まがっている, つるつる</p> <p>ピンクの花の木 — 1本</p> <p>白い花の木 — 2本</p> <p>「・・・・・・・・・・・・・・・・」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	82	上段	修正	<p>「・・・・・・・・・・・・・・・・」</p> <p>はじめ(しらせたいこと)</p> <p>きれいな花がさいている木を, くじらこうえんで見つけた。</p> <p>中(くわしいせつめい)</p> <p>1. ブランコの後ろに生えていた。</p> <p>2. 木のみきが, つるつるしている。</p> <p>3. ピンクの花がさいている木が一本, 白い花がさいている木が二本あった。</p> <p>4. 先生にきいてみたら, さるすべりという木だと教えてくれた。</p> <p>おわり(まとめのことば)</p> <p>みんなにも, さるすべりの花を見てほしい。</p> <p>「・・・・・・・・」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	85		修正	<p>「丸, 点, かぎ」</p> <p>(上段9行目以降を削除し, 次のように修正)</p> <p>すみ字で文しょうを書くときには, わかちがきのきまりがありません。また, 「ぼくわ」の「わ」を「ぼくは」と書きます。「あなたえ」の「え」を「あなたへ」と書きます。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	86	上段	修正	<p>「あったらいいな, こんなもの」</p> <p>(絵を削除して, 以下のように文章化)</p> <p>けんと「ねことはなせるヘッドセットがあったらいいな。」</p> <p>まな「ジャンプしたら空をとべる, 羽がついたブーツがあったらいいな。」</p>	編集の具体的方針(2)による。
	87	下段	削除	(「絵に」を削除)	
	88	1	削除	(「絵に」を削除)	
		2	修正	(「下の」を「次の」に修正)	
			削除	(「絵を見せながら」を削除)	
		下段	修正	(メモの前に「メモの例」を追加)	

2上	90		修正	「夏がいっぱい」 (挿絵を削除し、挿絵のことばを列挙した。 最後に、かぶと虫とくわがた虫の点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	93		修正	「お気に入りの本をしょうかいしよう」 「・・・・・・・・・・・・・・・・」 1. 読んだ日 — 6月24か 2. だいまい — 「ミリーのすてきなぼうし」 3. 書いた人 — きたむらさとし 4. おもしろかったしるし — 2じゅうまる 「・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	112		修正	「ことばでみちあんない」 (絵を削除し、簡略化した点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	114		修正	「かん字のひろば2」〔資料2-3〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	124	下段	修正	「読んで考えたことを話そう」 ノートのれい 「・・・・・・・・・・・・・・・・」 いつ — あさ どうぶつのなまえ — ひっしゃのしごと — 動物園を見回る。 いつ — 見回りがおわるころ どうぶつの名前 — いのしし ひっしゃのしごと — いのししのおなかにきかいを当てた。 「・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。
	129	下段	修正	「ことばあそびをしよう」 「ひらがなが」を「かなが」に修正 (上毛かるたの絵を削除し、文章化)	編集の具体的方針(2)による。
	130		修正	「なかまのことばとかん字」 (挿絵は削除し、項目ごとに言葉を並べ、次の漢字を点線文字で掲載した。) ちち はは こ ひゃく せん まん 父 母 子 百 千 万	編集の具体的方針(2)による。 *漢字の字形(6字)
	132		修正	「かん字のひろば3」〔資料2-4〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	143		削除	「絵をくらべて読もう」を削除	編集の具体的方針(2)による。
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」 (1年生配当の漢字の中から次の20の漢字を点線文字で掲載) 目 耳 手 足 口 円 文 正 王 玉 男 女 米 先 生 糸 車 虫 竹 花	編集の具体的方針(2)による。 *漢字の字形(20字)

2下	36	10	修正	「そーだんにのってください」 「話している人の方を見て」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	41	3	修正	「馬のおもちゃの作り方」(文を次のように修正) (たて17センチメートル, よこ13センチメートル, 高さ2センチメートルくらいのおおきさのもの) (「」内の言葉を追加)	編集の具体的方針(2)による。
	42	8	追加	空きばこを「よこ長におき,」四センチメートル…	
	43	10	追加	のこった一つは,「たて長になるよう」半分に…	
		3	修正	(「たてにして」を「上におこして」に修正)	
		2	削除	(「しゃしんのように,」を削除)	
	46		修正	「おもちゃの作り方をせつめいしよう」 (図を削除して, 次のように修正)	編集の具体的方針(2)による。
	47			動くかめのおもちゃ 松ぼっくりを使ったけん玉 ゆらゆら動くおもちゃ	
	48	9	修正	(「絵やしゃしんを入れると」を「見本をつかうと」 に修正)	
		下7	削除	(「絵やしゃしんは, 文しようと合っているか。」を 削除)	
	50		修正	「かたかなで書くことば」 (かたかなは第一かぎで囲んで掲載)	編集の具体的方針(2)による。
		上段	修正	つぎの「…」をつけたことばは, すみ字ではかたかな で書きます。	
	51		修正	「かたかなで書くことば」〔資料2-5〕	編集の具体的方針(2)による。
54		修正	「かん字のひろば4」〔資料2-6〕	編集の具体的方針(2)(3)による。	
71	下段	削除	「お話のさくしゃになろう」 (「絵を見て,」を削除)	編集の具体的方針(2)による。	
72		修正	(図を削除して, 文章化) 1. 次の文を読んでお話を考えよう。 ふたりのねずみが野原をあるいています。野原には コスモスやすずきが生え, 小川が流れています。 この文を読んで, つぎのことを考えましょう。		
73		修正	お話をせつめいするときのれい 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 はじめ(じんぶつのしょうかい, お話のきっかけ) いつも元気な… 中(できごとがおこる) 森に入ると, … おわり(じんぶつがお話のさいごにどうなった か) ふたりは, … 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」		
75	5	削除	(「まとまりごとに絵をかいて,」を削除)		

2下	76~77	下段	修正	「ふゆがいっぱい」 (挿絵を削除し、挿絵の言葉を列挙。ひいらぎ、雪の結晶の点図を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	79		修正	カードには、えらんだ詩とえらんだ理由をかきましよう。	
	80~81	81	修正	「にたいみのことば、はんたいのいみのことば」 (傍線は第1カギで囲んで示した)	編集の具体的方針(2)による。
	81		修正	(挿絵を削除し、次のように言葉を補って掲載) ぼうしを「かぶる」⇔「ぬぐ」 うわぎを「きる」⇔「ぬぐ」 ズボンを「はく」⇔「ぬぐ」 くつしたを「はく」⇔「ぬぐ」 くつを「はく」⇔「ぬぐ」	
	82		修正	「かん字の広場5」〔資料2-7〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
90	下段	修正	「だいじなことばに気をつけて読み、分かったことを知らせよう」 お話をせつめいするときのれい	編集の具体的方針(2)による。	
93			はじめ(じんぶつのしょうかい、お話のきっかけ) いつも元気な… 中(できごとがおこる) 森に入ると、… おわり(じんぶつがお話のさいごにどうなったか) ふたりは、…		
93	上段	下段	修正	「本でのしらべ方」 (写真を文章化)	編集の具体的方針(2)による。
			修正	運動場のあそび かさなりおに みんなは、わになってすわります。子が、だれかにかさなるようにすわるゲームです。 1. おにと子をきめて、みんなはまるくなってすわります。 2. 「よーい、どん」で、おには子をおいかけます。(どちらのむきにまわってもいいです)	
			修正	メモのれい 「……………」 (あそび) かさなりおに (あそび方) 1. おにと子をきめて、みんなはまるくなってすわります。 …… たけいしろう「運動場のあそび」 「……………」	

2下	94	3	修正	「ようすをあらわすことば」 (図を削除し、文を修正して掲載) ここに大雨がふっている絵があります。	編集の具体的方針(2)による。
	96 97	4	修正 修正	(「右」を「前」に修正した。) ようすをあらわす言い方のうち、どれかをつかって、 つぎのものようすをぶんにしてみましょう。 (1) 男の子のまえに大きなオムレツがある。 (2) ねこが日当たりのよいえんがわでひるねしている。 (3) ステージにいる女の子に、客席からおおぜい の人がはくしゅをしている。	
	103	3	修正	「楽しかったよ、二年生」 (「どこをむいて話すか。」に修正)	編集の具体的方針(2)による。
	104		修正	「カンジーはかせの大はつめい」 (「門」と「日」で「間」になることを点線文字で示し、説明文を付加) 門 → きかい 間 日 →	編集の具体的方針(3)による。
	105	下段	修正	つぎの「…」をつけたかん字を入れると、新しいかん字ができます。 「田」と「力」で「男」 「石」と「山」で「岩」 「日」づけと「生」まれるで「星」 「糸」と「会」うで「絵」 「…」をつけたかん字の矢を弓でとばすと、つぎのかん字のまにあたりました。 「花」→もえる「火」 「花火」 「先」→「生」まれる 「先生」 「名」ふだ→「前」 「名前」 「会」う→「話」 「会話」 かみの「毛」→「糸」 「毛糸」	
	106	2 4 4 5	修正 追加 修正 修正	「ことばを楽しもう」 (文を以下のように修正) 前から読んだり、後ろから読んだりしましょう。 次の「…」内は、後ろから読むときにつかいます。 ぞー(う)くんぱんくー(う)ぞ きんのは(わ)とは(わ)のんき	編集の具体的方針(2)による。
	128		修正	「すてきなところをつたえよう」 (次のように絵を文章化) (思い出したこと) ゆうやさんは給食をたくさん食べていた。 ゆうやさんがけがをした1年生をたすけていた。 けんとさんはなわとびが上手だった。 まなさんは上手に音読をしていた。 (「ていねいに点字を書きましょう。」に修正)	編集の具体的方針(2)による。

2下	138～ 139	1	修正	「げんこう用紙の使い方」 (「げんこう用紙の使い方」を「作文の書き方」に修正)	編集の具体的方針(2)による。
		2	修正	(「げんこう用紙に」を「作文を」に修正) 1. だいまいは、はじめの行に、4マスあけて書く。 2. 名前は行の終わりにくるように書く。 3. 文の書き始めは2マス開ける。 4. 丸(。)の後は2マス、点(,)の後は1マスあける。 5. 行を変えたら2マスあける。 6. ことばの途中で次の行に行かないようにする。 7. 話したことばは、「…」を付けてかく。 8. 間違いをなおすときには、ことばのまとまりをメの字で消し、1マスあけて書く。	
	142～ 146		修正	「せかいーの話」 (添え字を単語のあとに()で囲んで示した)	
	巻末		追加	「おぼえておきたいかん字」 (おぼえておきたいかん字として、2～4年生担当漢字の中から次の25の漢字を点線文字で示した) 雨 空 天 弓 刀 牛 魚 肉 言 工 士 立 止 力 出 早 夕 心 青 白 年 中 小 町 丁	編集の具体的方針(2)による。 *漢字の字形(25字)

3上	9		修正	「分ける・くらべる」 〔資料3-1〕	編集の具体的方針(2)による。
	11		修正	「よく聞いて自己紹介」 (文を修正して掲載) ボタンになるようなものを持つといいですね。	編集の具体的方針(2)による。
	14	下段	追加	日記の前に(谷口さんの日記)を追加。	編集の具体的方針(2)による。
	16 20	7 欄外	修正 追加	「きつつきの商売」 (太字を第1指示符で囲み、掲載) ・「おとや」っ (欄外の「たちつぼすみれ」の挿絵は削除し、以下の説明文を脚注として追加) たちつぼすみれ ― 春、うすむらさき色の花をつける草花。花が咲いた後、伸びて、30センチメートルくらいになる。	編集の具体的方針(2)による。
	22	欄外	削除	(欄外の「々」の脚注を削除)	
29	上段 下段	追加 追加 修正	「読んでそうぞうしたことをつたえ合おう」 題名の後に作者名を記載。 本文の後、改行し、(記録の例)を追加 (文を修正して掲載) …友だちにすすめたい気もちを、ほし1から、ほし3であらわしましょう)	編集の具体的方針(2)による。	

3 上	32		修正	「国語辞典を使おう」 (国語辞典の例について資料のように修正, 「はしら」の説明は次ページ「つめ」の説明とともに欄外注に掲載) [資料3-2] [資料3-3]	編集の具体的方針(2)による。
			修正	(文を修正して掲載) (「つめ」の説明の最初に「ページをめくる側につけられているもの。」という文を追加。「はしら」の説明の最初に「ページの上のすみにあり, 」という語句を追加し, 欄外注に掲載) (文を修正して掲載)	
	33	下1	修正	…「しいる」「ぷうる」のように伸ばすところが「あ い う え お」におきかえられて, ならんでいます。 (文を修正して掲載)	
	33	下6	修正	国語辞典では, ふつう, 次の「かく」「ふかい」「しずか」のような形が, 見出し語です。 (語句を修正して掲載)	
	34	上4	修正	(しずかに)「くらす(ひらがな)」と(あかるい)「クラス(カタカナ)」 (文を削除して掲載)	
		下2	削除	つぎの文章の空欄符号には, (なだらかなめらかのびやか)のどの言葉が入るでしょう。国語辞典を使って考えましょう。	
	35		修正	「漢字の広場 2年生で習った漢字1」 [資料3-4]	編集の具体的方針(3)による。
	38	上12	修正	「漢字の音と訓」 (文を修正し, 語例はそれぞれ該当の語に第1カギを付けて掲載) たとえば, 前の文の「…」をつけた部分の漢字には, 次のような二通りの読み方があります。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	39	上2	修正	(文を修正して掲載) たとえば, 中国語では, 「サン」というような発音で読んでいる漢字がありました。そこで, 日本でも「サン」と読みました。これが, 「音」です。 また, 日本では, 古くからその「サン」という漢字が表す「まわりの土地より高くなっている所」のことを, 「やま」といっていました。	
		下10	修正	(文を修正して掲載) (2) 次の文の「…」をつけた部分は, 同じ漢字の音と訓を使っています。 あ。「小」学校で, 「小」さなねこをみた。 い。「下」校の時に坂を「下」る。 う。その場で十「回」「回」ったら, ふらふらになった。 え。親「切」な人が, あぶない木を「切」ってくれた。 お。「音」楽を聞いて, 「楽」しむ。	

3 上	41	上	修正	「もっと知りたい、友だちのこと」 (文を修正して掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	42	7	追加	どんなときに使うのかを次の表で確かめましょう。 (高山さんの話)を追加。	
	44～45		修正	「きちんと伝えるために」 〔資料3-5〕	編集の具体的方針(2)による。
	46		修正	「漢字の広場 2年生で習った漢字2」 〔資料3-6〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	49		修正	「言葉で遊ぼう」 (傍線部及び下段の課題文について、資料のように修正し、本文の後に挿入) 〔資料3-7〕	編集の具体的方針(2)による。
	50～55	下段	削除	「こまを楽しむ」(写真を削除)	編集の具体的方針(2)による。
	58	下段	修正	「本の名前」(作者)説明の順に記載。	
	62	下段	修正	「気もちをこめて「来てください」」 (森川さんの手紙を点字の書き方に修正して掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	64		追加	「漢字の広場 2年生で習った漢字3」 〔資料3-8〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	67	欄外	修正	「まいごのかぎ」 (欄外の「やぶがらし」の挿絵は削除し、以下の説明文を脚注として追加) やぶがらし — くきがつるとなってはえるしょくぶつ。 みちばたや空き地などに生える雑草。	*墨字の「バ」の字形についての説明と配慮が必要
	76			「バ」の点が、なぜか三つあるのです。	
	84	下段	修正	「本の名前」(作者)説明の順に記載。	
	85			「声に出して楽しもう」 (歴史的仮名遣い部分は、現代仮名遣いのみで掲載)	編集の具体的方針(5)による。 *歴史的仮名遣いは、学年を考慮し、現代仮名遣いのみで書き表した。
	87			「いろは歌」(脚注を追加) うゐの — ういの ゑひも — えひも	
88	下段	修正	「こそあど言葉をつかいこなそう」 図を〔資料3-9〕のように修正。	編集の具体的方針(2)による。	
89	下1		(文を修正して掲載) 1. 次の文章のこそあど言葉を抜き出し、それが…		
90		修正	「引用するとき」 漫画2コマ目に(上田さんの書いたノート)を追加。	編集の具体的方針(2)による。	
91	上3	修正	引用の決まりを次のように修正 (1. 「…」を付けるなど、引用したことがわかるようにする。) 本文を以下のように修正 (書かれている文を同じように書き写す。) (「例」)を例示の前に追加。		

3 上	93		修正	「仕事のくふう、みつけたよ」 (図にして思い出す) を (書き出して思い出す) 〔資料 3-10〕	編集の具体的方針(2)による。
	94	下段	追加	本文後に (段落わけの例) を追加	
	97	上 1	追加	「符号など」 (「符号など」の後に以下の文を追加) (おもにすみ字で縦書きにする場合の例)	編集の具体的方針(2)による。
		下 8	修正	(「横書き」の説明文を以下のように修正) すみ字では、縦書きと横書きがあります。横書きにする場合、左から右に書きます。	
	101	5	修正	「はじめて知ったことを知らせよう」 (名前と台詞の間に、書籍名を追加して掲載)	編集の具体的方針(2)による。
		10	修正	(女の子の発言を以下のように修正。) 「…バナナを食べるときに、気にするようになったよ」	
	102	下段	追加	(目次・さくいんページ例の前にそれぞれ「目次の例」「さくいんの例」を追加)	
	103		修正	「本の名前」 (作者) 説明の順に記載。	
	112	脚注	追加	「私と小鳥とすずと」 (脚注の追加) じべた — ここでは「地面」という漢字が使われている。	編集の具体的方針(2)による。
	116	下段	修正	「山小屋で三日間すごすなら」 〔資料 3-11〕 (高山さんの台詞を以下のように修正) 「ノートに書き出してみよう。」	編集の具体的方針(2)による。
118		修正	「ポスターを読もう」 ポスターのイラストを削除、資料のように説明した。	編集の具体的方針(2)による。	
120			〔資料 3-12〕		
122	上段	削除	「へんづくり」 (イラスト及び 3~5 行目を削除)	編集の具体的方針(2)(3)による。 * 漢字の字形 4 字 * 漢字の字形についてはごんべんの一画目など、明朝体やゴシック体のような字体ではなく教科書体に近い形であらわした。	
	下段	修正	(ごんべんにつく漢字の字形を点線文字で表記)		
	下 7	削除	(「ごんべん」の字形を削除し、かな表記)		
123	下 13	削除	(「言」は、「ごんべん」といいます。) を削除		
	上段	削除	(へんの例について、字形を削除)		
	下 6		(おおがいの字形は削除し、かな表記。また、「おおがい」といい、) を削除		
	下 12	修正	(文を修正) 「動__く」と「助__ける」のつくりは、「ちから」という字です。		

3 上	128 (1) 125 (4) 124 (5)	2 吹出 3	削除 修正 修正 修正	「ローマ字」 アルファベットの字形を掲載 (文を修正) 伸ばす音の前に4の点をつけて書き表します。 3の点がないと、『こにゃ』と読めてしまう。 また、言葉をつなぐしるしとして数3数6の点をつけることもあります。	編集の具体的方針(2)(7)による。 *アルファベットの字形を覚えることがねらいではないので、自分のイニシアルを確認するなど、楽しく活動できることに主眼をおき、児童の負担にならないように留意する。
	134	上段	修正	「知りたいことの見つけ方、調べ方」 〔資料3-13〕 図の説明文の一部を、図の前に掲載。	編集の具体的方針(2)による。
	136 137	10 下段 1 下段	修正 追加 追加 修正	「手紙の書き方」〔資料3-14〕〔資料3-15〕 (点字の手紙の形式に合わせて本文の記載順序を入れ替え、墨字の「後付け」を前付けとして配置) (本文の後に以下のように文章を追加する。) 一般的に、次のような順序で書きます。 1. 前付け (1)相手の名前 (2)日づけ (3)自分の名前の順で書きます。 2. はじめの挨拶 3. 本文 4. 結びの挨拶 (はがきの例)を追加 (「あて名の書き方」のあとに、「すみ字で書く場合」と追加) (「はがき」「ふうしょ」のイラストを削除し、「はがきや封書の宛名の書き方」として点字の形式を挿入)	編集の具体的方針(2)による。
	138	1	削除 追加 修正	「げんこう用紙の使い方」 (全体を点字での書き方に修正して掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	140		削除	「ひらがなとかたかな」 ひらがなとカタカナの五十音表の字形を掲載	編集の具体的方針(3)による。 *ひらがなとカタカナの字形を覚えることそのものがねらいではない。自分の名前を確認するなど、楽しく活動できることに主眼をおき、児童の負担にならないように留意する。
	3 下	10 11	上	修正	「つづけてみよう」 (文を以下のように修正して掲載) …感想を、友達に伝えてもいいですね。

3下	29	下段	修正	「修飾語を使って書こう」 (小書きの右側の言葉は第1カッコで囲み、該当の文節の直後に掲載。)	編集の具体的方針(2)による。
	29		修正	(四つの例文に1.～4.と番号を付加、小書きの右側の言葉は第1カッコで囲み、該当の文節の直後に掲載。)	
	30	1		(文の修正) そして、(どんな)(どれくらい)の部分をつけ足すことで、文の意味が定まって、だんだんと分かりやすい文になっています。(どんな)(どれくらい)のように、文の意味をくわしくする言葉を、「修飾語」といいます。	
	31	下段	修正	(文の修正) これらの「いつ」「どこの」「だれに」「何を(どこを)」「だれの(何の)」「どのように」に当たる言葉も修飾語です。	
		9	修正	(文の修正) 写真は削除し、問題文を次のように修正。 (3)「池」「犬」という言葉を使った修飾語を加えて、次の文を詳しくしましょう。 男の子が魚つりをしています。	
	35	5	修正	「はんで意見をまとめよう」 (文の修正) 自分の考えを、ノートなどに書いておきましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	36		修正	(上部見出しに1.～3.と番号を付加。会話を掲載し、その後ろに見出しに対応する形で下段解説を掲載する。)	
	38	12	修正	(文の修正) …みんなが考えを書いたメモを、きろく係の…	
	39	13	修正	(文の修正) 意見がたくさん出たときには、メモを読みながら、話し合いの様子を整理しましょう。	
		8	修正	(文の修正) メモを読みながら考えたのが、分かりやすかったね。	
	40	7	修正	「漢字の広場 2年生で習った漢字4」 〔資料3-16〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	52	2	修正	「科学読み物での調べ方」 (文の修正) おいしく食べるくふうや食品のれいを、整理しましょう。 (図を削除し、資料のように修正)〔資料3-17〕 (「表を整理する」を削除)	編集の具体的方針(2)による。
	54	下段	修正	(はじめ・中・終わりの段落番号を本文の後に示した。)	
	58	3	修正	「ことわざ・故事成語」 (漫画を削除し、修正して掲載)〔資料3-18〕	編集の具体的方針(2)による。

3下	60	上段	修正	「漢字の意味」(課題文を次のように修正し掲載) 上の文を読んで、次の(1)と(2)のどちらを思い浮かべますか。 (1) 飾りの「はな」 (2) 顔にある「はな」	編集の具体的方針(2)(3)による。	
			削除	(次の文を削除) (1) 人形に花をつける。 (2) 人形に鼻をつける。		
		下段	修正	(課題文を次のように修正) 「…」のついた言葉に当てはまる漢字を考えましょう。意味を二通り考えられましたか。 (1) 「は」がきれいだ。 (2) 「ひ」にあたる。		
	61	1	差替	「次の文を読んでみましょう。」 (5行目までを削除し、以下の文章に差し替え) 次の文を読んでみましょう。 ふたえにしてくびにつけるアクセサリー ふたえに して くびに つける アクセサリー ふたえに し てくびに つける アクセサリー マスあけの位置によって、意味が変わることがあります。		
		6	修正	次の文の「…」をつけた部分は、同じ音でも違う漢字を使います。		
	64			「漢字の広場 2年生でならった漢字5」 [資料3-19]		編集の具体的方針(2)(3)による。
	59			「三年とうげ」 「この本、読もう」(世界地図を削除し、該当地域や国名を付加)		編集の具体的方針(2)による。
	79	下段	修正	(しょうかいのれいの後に、下段の内容を掲載)		
	81	3	修正	「たから島のぼうけん」 (文の修正) たから島の地図を手に入れました。		編集の具体的方針(2)による。
	82	2	削除	(「地図を見ながら」という語句を削除)		
84	1	修正	(文の修正) 1. ぼうけんを、そうぞうしよう			
84	下段	修正	(文章の組み立ては該当段落の末に挿入)			
92	2	追加	「カンジーはかせの音訓かるた」 (文章の後に次の文を追加) (「…」をつけた部分は同じ漢字を使います。)	編集の具体的方針(2)(3)による。		
	下4	追加	(「…」をつけた部分は同じ漢字を使います。)			
94			「漢字の広場 2年生でならった漢字6」 [資料3-20]	編集の具体的方針(2)(3)による。		
106	9	修正	「つたわる言葉で表そう」 (文の修正) 「だれが」「いつ」「どこで」「だれと(何と)」…	編集の具体的方針(2)による。		
107	7	修正	(文の修正) 友だちの文章を読んで手がかりに			
108	6	修正	(字数の指定箇所に点字のマス数を付記) 点字 32 マス 11 行 (200 字) くらい			

3下	112		修正	「これがわたしのお気に入り」 〔資料3-21〕 (本文の後に文章の組み立ての説明を掲載)	編集の具体的方針(2)による。
	115	2	修正	「コンピュータのローマ字入力」 (A M E を削除し, 「, a , m , e」に修正 (文の修正)	編集の具体的方針(2)(3)による。
		12	修正	(3) のばす音は, 次のように書きます。点字の書き方やローマ字の書き表し方とはちがうので, 注意しましょう。」	
	114	8	修正	(文の修正) たとえば, 「きしゃ」をへんかんしようとする, 「記者(新聞記者)」「帰社(会社に帰る)」「汽車(鉄道の列車)」などが出てきます。	
		16	追加	電波(電波時計) 放送(放送局)	
	118	下段	修正	「わたしたちの学校じまん」 (発表原稿は, 先に本文を掲載し, 後ろに書き直した原稿を掲載した)	編集の具体的方針(2)による。
	119		修正 修正	(発表のポイントは, 第一カッコで囲み, 該当欄の後に挿入した。) (本文の後に文章の組み立ての説明を掲載)	

4上	9	上段	修正	「分ける・くらべる」 〔資料4-1〕 (吹き出し部分を修正して掲載) 北山「なかま分けをすると, …整理することができるよ。」 竹中「くらべると, …整理できるよ。」	編集の具体的方針(2)による。
		下段	修正	〔資料4-2〕	
	11	上段		「こんなところが同じだね」 「筆箱の色とシャツの色が同じ」等, 色について	編集の具体的方針(2)による。 *色について, 児童の実態に応じて適切に指導する。
	12	4~6	修正	「春のうた」 (3行を第1段落挿入符で囲んで掲載)	
	22	11	修正	「白いぼうし」 ○の字→〇(オー)の字	編集の具体的方針(2)による。
	29	下段	修正	日付を略記で掲載。 (文の修正) 「おすすめ度」は, 友達にすすめたい気持ちを, 星1~3で表しましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	30	上段	削除 修正 追加	「図書館の達人になろう」 (写真は削除し, 本のラベルの説明の一文を追加。) 「ラベルには, 本の分類を表す番号や, 作者の名前の一音目などが書かれている。」	編集の具体的方針(2)による。

4 上	32	上段	修正	「漢字の組み立て」 (挿絵を削除し、文を修正して掲載) 五つの漢字、「やど」「わる__い」「みち」「ひろ__い」「あいだ」などの漢字は、それぞれ二つの部分の組み合わせで作られています。 〔資料4-3〕(部首の位置は点図で、次の部首の形は点線文字で掲載。各熟語例のみ、該当する漢字に第1カギを付けて掲載) くさかんむり うかんむり たけかんむり あめかんむり ころろ れんが(れっか)	編集の具体的方針(3)による。
	32	下段	修正	しんにょう(しんにゅう) まだれ くにながまえ もんがまえ	
	32	下段	修正	(挿絵を削除し、文を修正) くさかんむりは、主に植物に関係のある漢字を作っています。次の(1)~(3)は、それぞれ何に関係のある漢字を作っているでしょう。 (1) たけかんむり (2) れんが(れっか) (3) しんにょう(しんにゅう)	
	33	上段	修正		
	33	下7	削除 修正		
	34	上段 中段	削除	「漢字辞典の使い方」 (挿絵、漢字辞典「飛」の例は削除)	編集の具体的方針(2)(3)による。
	35	上段	修正	(文を修正して掲載) (れい―「もん」を部分にもつ漢字) 「かい(ひら__く)」― 部首は「もんがまえ」 「ぶん(き__く)」― 部首は「みみ」	編集の具体的方針(2)(3)による。
	35	下段	修正	(文を修正し、次の漢字は読みに加え、点図も掲載)	編集の具体的方針(2)(3)による。
		5	削除	<p>区 池 子 近</p> <p>画を数えるとき、「く」の4画目のような「おれ」や「いけ」の6画目のような「曲がり」は、1画と数えます。</p> <p>「く」 「いけ」</p> <p>区 池</p> <p>4かくめ 6かくめ</p> <p>(区 4画目を太線 その下に4画目と記載) (池 6画目を太線 その下に6画目と記載)</p> <p>また、「こ」の1画目と2画目のようにひとつづきに見えても、2画と数えるものがあります。</p> <p>「ちか__い」の6画目と7画目はひとつづきに見えても、6画目、7画目と数えます。</p> <p>「こ」 「ちか__い」</p> <p>子 近</p> <p>1・2かくめ 6・7かくめ</p> <p>(子 1, 2画目を太線 その下に1・2画目と記載) (近 6, 7画目を太線 その下に6・7画目と記載)</p>	<p>*漢字の字形 4字</p> <p>編集の具体的方針(2)(3)による。</p> <p>*画数の大まかな知識として掲載しているもので、ねらいそのものとならない。</p>
	36~37		削除	「音訓さくいん」「部首さくいん」「絵画さくいん」 (索引例はすべて削除)	編集の具体的方針(2)(3)による

4上	37	下1	修正	(課題文を次のように修正) 1. 次の「 」で示した部分は、それぞれあとの()内の画数の漢字です。漢字辞典などを使って漢字の意味と使い方を調べてみましょう。 (1) 「しゃ」真家(5画) (2) 作「きよく」(6画) (3) 「はつ」音(9画) (4) 「き」立(10画) (5) 太「よう」(12画) (6) 「ゆう」園地(12画)	編集の具体的方針(2)(5)による。	
		下4	修正	2. 漢字辞典などを使って、「 」の中の漢字の読み方、意味、使い方を調べましょう。 (傍線部の漢字は、第1カギで囲む。「マザー・テレサ」はふたえカギで囲む。)		
	38		削除	「きせつの言葉(1) 春の楽しみ」 (写真・挿絵は削除)		
			修正	(「大だこ祭り」の説明部分は、点線枠で囲む。) 歴史的仮名遣いは、現代仮名遣いで掲載		
	40 41 42	上段	追加 修正	「聞き取りメモのくふう」 (実線枠の前に(けいじ係の話)を追加。) (竹中と北山の吹き出しを以下のように修正) 竹中「言葉を省略してかんたん書いた。」 北山「『活動』と『お願い』と言ったので、それを見出しにした。…後でききたいことには、印をつけておいた。」 [資料4-4]		編集の具体的方針(2)による。
	43	下段	修正	「印をしたり、書くところ空けておいたりする」を、「印をつけておく」に修正。		
44	上段	修正	「コラム」話し方や聞き方から伝わること [資料4-5] (挿絵は削除し、その説明を追加)	編集の具体的方針(2)による。		
	下段	削除	1. 図書係がお願いをしています。聞く人の受け止め方が…考えましょう。 吹き出しは、図書係・聞く人1・聞く人2 2. 消防士が仕事の説明をしています。聞く人が手元…どうちがうでしょうか。 吹き出しは、消防士・聞く人1・聞く人2			
45	上段		1. 顔の向き 二人の友達に向かって話をしている人がいます。 友達1(話す人の方を向いて)「そう、それはよかったね。」 友達2(本に顔を向けたままで)「そう、それはよかったね。」 2. 間の取り方 話す人(荷物を運ぶときに)「いっしょに運んでもらえるかな。」 吹き出しは、友達1・友達2 3. みんなの前で話をしている人がいます。	編集の具体的方針(2)による。		
		中段 下段				

4 上	46			「漢字の広場(1) 3年生で習った漢字」 〔資料4-6〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	48～49	削除 修正 追加		「思いやりのデザイン」 (地図は削除し、③段落の初めに以下の文を追加。) 「ここに2枚の案内図A・Bがあります。」 「アップとルーズで伝える」	編集の具体的方針(2)による。 *視覚的経験に基づく教材であるため、「見てみましょう。」の言葉をそのまま残してある。指導に当たっては、児童の実態に沿った工夫が望ましい。
	50～54	削除		(写真を削除) (「50ページから53ページの写真について、…見つけましょう。」の一文を削除)	
	57 59	下段 修正 追加 下段 修正 追加		「筆者は、新聞の写真…。」 「考えと例」 発表例を点線枠で囲み、(木村さんの発表)を追加。	*「新聞における写真」について、児童の実態に沿った工夫が望ましい。
	60	修正 削除		「カンジーはかせの都道府県の旅1」 地図と挿絵を削除	編集の具体的方針(3)による。
	62～63	下段 修正 追加		「お礼の気持ちを伝えよう」 (点字の手紙の形式にし、実線枠で囲む。) (手紙の型) 1. 前づけ (1) 相手の名前 (2) 日付 (3) 自分の名前 2. 初めのあいさつ (1) 季節に関する言葉や、相手の様子をたずねる言葉 (2) 自分のしょうかい。 3. 本文 伝えたいこと。 4. むすびのあいさつ (1) 別れのあいさつ(2)相手の健康を気づかう言葉	編集の具体的方針(2)による。
	64	上段 修正 追加		(以下の文を追加する。) 「墨字で手紙を書く場合は、結びの言葉の後に後付として、日付、自分の名前、相手の名前の順に書きます。」	
	65	削除 追加		(手紙の文例を、点字の手紙の型で、点線枠に入れる。) (封筒の挿絵は削除し、以下の文を追加) 「墨字の手紙では、封筒の表に、相手の郵便番号、住所、あて名を、裏に、自分の郵便番号と住所、氏名を書きます。」	
	66			「漢字の広場(2) 3年生で習った漢字」 〔資料4-7〕	編集の具体的方針(2)による。
	81	下段 削除 修正		「つなぎ言葉のはたらきを知ろう」 (挿絵を削除。P81 8行目ゴシック体はカギで囲む。)	編集の具体的方針(2)による。

4 上	86	上段	削除 追加	「要約するとき」 (挿絵は削除し、吹き出しは、「お父さん」「原田」とし、以下の説明を追加) (右上) 原田さんは、お父さんと次のような話をしました。 お父さん(写真を撮ろうとして)「ううん。…」 (右下) しばらくたってから	編集の具体的方針(2)による。
	88 89		削除 追加	「新聞を作ろう」 (挿絵は削除し、以下のように修正) 4行目の後に、「墨字の新聞には、次のようなことが書かれています。」を追加。	編集の具体的方針(2)による。 *インクルーシブ教育の形態もふまえて、図や表、写真等の表現をあえて残してあるので丁寧な説明と配慮が必要。
	91	下段	修正	「目に入りやすいところに」を「一番目に」に修正。	
	92	下段	修正	北山の吹き出しを修正。 「細かい数字はグラフで表そうかな。」を「細かい数字は表で表そうかな。」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	94 95	4段 3	修正 修正	グラフを表に修正 「ろうかにはって付せんを用意し」を「カードを用意し」に修正。	
	96		修正	鈴木 of 吹き出し「グラフ」を「表」に修正。 「○をつけてください」を「記号で答えてください」に修正。	
	97	下段	削除	グラフを削除	
	98		修正 削除	「カンジーはかせの都道府県の旅2」 地図と挿絵を削除	編集の具体的方針(3)による。
	100 101	下段		「きせつの言葉(2) 夏の楽しみ」 (写真・挿絵は削除) (俳句のカードを点線枠で囲む。) (歴史的仮名遣いは、現代仮名遣いで掲載)	編集の具体的方針(2)(5)による。
	105	上段	削除 追加	「事実に基づいて書かれた本を読もう」 〔資料4-8〕 「ポップ」「帯」の説明を追加。 ポップ —— 本の魅力を短い言葉や絵で、カードなどに表現したもの。 帯 —— キャッチコピーなどが書かれた紙を、本の表紙の下部に帯のように巻いたもの。	編集の具体的方針(2)による。
	120	上段	追加 削除	「パンフレットを読もう」 「手軽に持ち運べて」の前に「墨字のパンフレットは」を追加。	編集の具体的方針(2)による。
	121 122	上段		(1)の文を「墨字のパンフレットでは、次のようなことが工夫されています。」を追加。 パンフレットの挿絵は削除したが、「絵の説明 ゴミ処理の流れを、説明文と同じ番号がついたイラストと矢印で表している。」を追加。	

4 上	124～ 125	下段		「いろいろな意味をもつ言葉」 3. 次の(1)～(2)の「 」内の言葉を使い、「とる」 という詩にならった言葉遊びの詩を (挿絵を削除し、挿絵の説明を追加)	編集の具体的方針(2)による。
	126		修正	(1)「ひく」 かぜを「ひく」 ギターを「ひく」 つなを「ひく」 (2)「かける」 めがねを「かける」 洋服を「かける」 でんわを「かける」	編集の具体的方針(2)による。
	126			「漢字の広場(3) 3年生で習った漢字」 〔資料4-9〕	編集の具体的方針(3)による。
	134～ 135	2～3 枠内	修正 修正 修正	「げんこう用紙の使い方」 (点字の書き方に合わせて語句やマス数を修正) 「作文などの文章の書き方」 「題名は初めの行の5マス目から書く。」に修正。 「前の行の一番下のマスに…」は削除。 「本だったので」を第3指示符で囲み、P134 上段は 「一文が長いときは、文を分ける。ここでは、第3指示符を付けた『本だったので』を、『本でした。そこで、』のように文を分ける。」と修正。	編集の具体的方針(2)による。
	136			「ローマ字の表」 点字のローマ字表を掲載。	編集の具体的方針(7)による。
4 下	10	下段	修正	木村の吹き出しを、以下のように修正。 「ぼくの最近の出来事を表す漢字は、『しん(しん— じる)』です。…」	編集の具体的方針(2)による。
	34		修正	「秋の楽しみ」 (手紙は点字の書き方にし、点線枠で囲む) 「……………」 おじいちゃんへ 10月2日 木村りょう お元気ですか。十五日から秋祭りが…。 「……………」	編集の具体的方針(2)による。
	36～40		修正 修正	「クラスみんなで決めるには」〔資料4-10〕 (上段の「話し合いの様子」を実線枠で囲み、下段は、「話し合いで気をつけること」として、その後 に実線枠で囲む。)	編集の具体的方針(2)による。
	42			「漢字の広場(4) 3年生で習った漢字」 〔資料4-11〕	編集の具体的方針(3)による。
	52	下段	修正 追加 修正 追加	「百科事典での調べ方」 (挿絵を削除し、文を以下のように修正) 墨字の百科事典では、「柱」や「つめ」に書かれて いる語を手がかりにして、ページを探すことができ ます。	編集の具体的方針(2)による。

4下	55	上段 3 13		「伝統工芸のよさを伝えよう」 〔資料4-12〕 (「写真や絵をどのように使うか。」「写真や絵」の取り扱いについては、一般的に、リーフレットには写真や絵が使用されているものであり、そのまま残している。)	*一般的にリーフレットには写真や絵が使われているもので、児童の実態に応じて適切に指導する。
	60～61			「短歌・俳句に親しもう(二)」 歴史的仮名遣いは現代仮名遣いで表記。	編集の具体的方針(5)による。
	62		修正 追加	「漢字の広場(5) 3年生で習った漢字」 〔資料4-13〕	編集の具体的方針(3)による。
	80 84	上段 下11	追加	「熟語の意味」(挿絵は削除) (ありは「あり1」「あり2」「あり3」と付記) 1. 訓読みを記載 木刀(き, かたな) 無色(ない, いろ) 流星(ながれる, ほし) 竹林(たけ, はやし) 同時(おなじ, とき) 人力(ひと, ちから) 深海(ふかい, うみ) 伝言(つたえる, いう)	編集の具体的方針(2)(5)による。
	85	下9	追加	2. 漢字の組み合わせを手がかりにして…。 (訓読みを記載) 明暗(あかるい, くらい) 白紙(しろい, かみ) 岩石(いわ, いし) 消火(けす, ひ) 登山(のぼる, やま) 軽重(かるい, おもい) 運送(はこぶ, おくる) 右折(みぎ, おれる)	編集の具体的方針(2)(3)による。
	86		修正 追加	「漢字の広場 3年生で習った漢字 6」 〔資料4-14〕	編集の具体的方針(3)による。
	88		削除 修正	「ウナギのなぞを追って」 (写真・表・挿絵は削除し、図の1・3は略図にして掲載) (本文中、図2, 図4は削除。文中、表題の図3→図2に修正) (本文中、図2, 図4は削除。文中、表題の図3→図2に修正)	編集の具体的方針(2)による。
	99	下段	修正	(点線枠の中の「しょうかいする文章の例」のあとに、1行空けて段落の説明を掲載) 何の話か—第1, 第2段落 要約—第3段落 感想—最後の段落	編集の具体的方針(2)による。
	108～ 109	中段 上段 下段		「もしものときにそなえよう」 (「初め, 中, 終わり」はP108の4行の後に挿入。) (北山さんの文章と木村さんの文章は、それぞれ点線枠で囲む)。	編集の具体的方針(2)による。

4下	113	下段	修正	「調べて話そう，生活調査隊」〔資料4-15〕 (アンケートの例 問1を以下のように修正) 放課後をどこで過ごすことが多いですか。一番多い場所を次のア。～カ。から一つ選び，記号で答えて下さい。 (発表の例は点線枠で囲み，初め，中，終わりについての説明は(発表の例)の後に掲載。) (初め)——第1段落(北山) (中)——第2段落から(竹中，木村) (終わり)——最後の段落(原田) (発表の工夫点は，文中の朱線部前後に挿入。)	編集の具体的方針(2)による。
	117	上段	削除	「まちがえやすい漢字」 (挿絵と吹き出しを削除。上段2行の文を削除。)	編集の具体的方針(2)(3)による。
		下1	修正	(「平がな」を「点字」に修正。)	
		下2	修正	(「平がな」を「点字」に修正。)	
		下5	修正	(正しい漢字を使いましょう。を 正しい漢字を選びましょう。に修正)	
	下12	修正	(課題文を修正し，訓読みの語には音読みを付記)		
	下6	修正	1. 次の文の「 」で示した部分の意味の違いを考えましょう。 (1) きずが「はや」くなるとよい。音は「そう」 「はや」く走れるよう努力する。音は「そく」 (2) 倉庫の戸が「あ」く。音は「かい」。 (文を修正)		
	118	下2	修正	読むことができても，なじみがない言葉だと，意味が分からないことがあります。	
	144	上2	修正	「聞くことのトレーニング」 (「相手の顔を見て聞く」を「相手の方をむいて聞く」に修正)	編集の具体的方針(2)による。
	3		修正	(「話を聞くときは，相手の顔を見て」を「話を聞くときは，相手の方をむいて」に修正)	
	下5	修正	(「聞き手は，相手を見ないで」を「聞き手は，相手の方を向かないで」に修正)		
	6		修正	(「聞き手は相手を見て」を「聞き手は，相手の方を向いて」に修正)	
	149		修正	「百人一首に親しもう」 歴史的仮名遣いは現代仮名遣いで掲載	編集の具体的方針(5)による。

5年	8	下段	修正	「5年生で学習すること」 「…図表の使い方を…」を「図表の使い方などを…」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	11	上段 下段	修正	「つなげる・広げる」 (上下の図を資料のように修正) 〔資料5-1〕	編集の具体的方針(2)による。
	11	下段	修正	「物事や考えを線でつなぎ，…」を「物事や考えをつなぎ，…」に修正。	編集の具体的方針(2)による。

5年	32～33		修正	「図書館を使いこなそう」 (日本十進分類法の図・本の写真を資料のように修正) 〔資料5-2〕	編集の具体的方針(2)による。
	34	上段 1～5	削除	「漢字の成り立ち」 (文章・文字・漢字枠を削除)	編集の具体的方針(2)(3)による。
	34～35		修正	(P34 下段からP35 上段L8までを資料のように修正) (漢字「草」については、草冠・早・草を点線文字で表す。) 〔資料5-3〕 (P34の欄外の説明はP35 上段L8の後に挿入)	編集の具体的方針(2)(3)による。
	35	上段 9	修正	(1の課題文を次のように修正) 1 次の「 」で示した漢字は、4.に当たるものではありません。漢字の意味を確かめましょう。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	35	下段 10	修正	(2の課題文を次のように修正) 2 次の「 」で示した漢字の成り立ちを、辞典を使って調べましょう。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	36～37		修正	「季節の言葉1」 (「枕草子」・俳句は現代仮名遣いで書き表す。) (季節の言葉2～4も同様にする。)	編集の具体的方針(3)(5)による。
	39		修正	「きいて、きいて、きいてみよう」 (聞いてみたい話題の例) 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 「白石さん」 →野球チームに入っている→きっかけ、いつから、 楽しさ、たいへんさ、野球とは →放送委員 →お笑いが好き 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。 ※マッピング形式の図であるが、児童が実際の学習で筆記できる形式に修正した。
	44		修正	「漢字の広場 4年生で習った漢字1」 〔資料5-4〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	46～47		修正	「見立てる」 (欄外の課題は1.～4.のナンバリングをして題材末に掲載) 写真A→図1(点図) 写真B→図2(点図)	編集の具体的方針(2)による。
	51		削除	「言葉の意味が分かること」 (P51の図とキャプションは削除)	編集の具体的方針(2)による。
	52	5	修正	(「下の図」を「(該当ページ)の表」とし、図を資料のように修正し、P52L13の後に挿入) 〔資料5-5〕	編集の具体的方針(2)による。
	55	上段 4	修正	点字32マス9行(150字)以内	編集の具体的方針(6)による。
	56	下段 6	修正	「凹」「凸」は、「アウトツ」の「オウ」,「アウトツ」の「ツツ」と表記。	編集の具体的方針(2)(3)による。

5年	58	下段 10	修正	「漢語・和語・外来語」 (L10～L13 までを次のように修正) 「自然カガク」の「科学」のように…あります。これらは、ふつう漢字で書き表しますが、平仮名で書いてあっても、…。」	編集の具体的方針(2)による。
	59	下段 1	修正	(1の課題文を次のように修正) 「1 次の文中の「 」をつけた言葉は、同じ漢字を使います。ただし、漢語と和語で…」	編集の具体的方針(2)による。
	61	上段 12～ 13	修正	「日常を十七音で」 (ふつうは、促音(っ)や長音(ー), 撥音(ん)も、一音と数えます。)に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	62	上段 13	修正	(③を次のように修正) (3) どのように書き表すかを考えるー墨字では、漢字、平仮名…。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	62	下段	修正	(俳句は現代仮名遣いで書き表す。)	編集の具体的方針(5)による。
	63	上段 6	修正	「感想をふせんに書いて、…。」を「感想をはってもいいですね。」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	63	下段 5	修正	「漢字、平仮名、片仮名のどれを使って書き表すか…。」を「どのように書き表すか…。」に修正。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	64～69		削除 修正	「古典の世界(一)」 (絵とキャプション, QRコードは削除) (現代仮名遣い, 古文, 訳の順に掲載)	編集の具体的方針(5)による。 初めて古文に触れる教材であるため、読みやすさを考慮し、歴史的仮名遣いの部分のみを取り出して脚注で示すことをせず、現代仮名遣いの表記と歴史的仮名遣いの表記を両方掲載した。
	74	上段 4	修正	「みんなが過ごしやすい町へ」 (②の文を次のように修正) (2) 引用に使えるような文章を、正確に書き写す。	編集の具体的方針(2)による。
	75	下段	修正	(図を「文章を長く引用するときの例」とし、引用文は段落挿入符で囲む。朱書きの「三・四字下げる」・符号・波線は削除し、その他の朱書きは、囲み枠線の外に書く。)	編集の具体的方針(2)による。
	76	15	修正	(写真を削除し、作文のL15の後に、「(音響用押ボタンの写真)」を挿入。	編集の具体的方針(2)による。
	77	下段 5-6	修正	「…写真や図表を用いたり…」を「…図表を用いたり…」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	78～79		修正	「同じ読み方の漢字」 〔資料5-6〕	編集の具体的方針(2)(3)による。

5年	84	下段	修正	「作家で広げるわたしたちの読書」 吹き出しの「この本の中の…」を「『はじめての文学』（重松清）の本の中の…」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	97	上段 1~2	修正	「どちらを選びますか」 2の「…それぞれのチームから…」を「…犬をすすめるチーム（二人）と、ねこをすすめるチーム（二人）から…」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	98~99		追加	「新聞を読もう」 （L8の本文の後に「一面の記事は、次のように構成されています。」という文を追加し、各項目をナンバリングして記す。）	編集の具体的方針(2)による。
	99	下段	削除 修正	（新聞記事の写真は削除。） （「逆三角形の構成」を点図で表す。）	
	100~	4	修正 削除	「… で囲まれた部分は…」を「…次の部分は…」に修正。 （新聞記事の写真は削除）	編集の具体的方針(2)による。
	102	下段 4	修正	「…本文や図表から読み取る。」を「…本文や図表などから読み取る。」に修正	編集の具体的方針(2)による。
	103	上段	修正	「敬語」 （相手の違いがわかるように、吹き出しを次のように修正） （友だちに）「少し待ってね。」 （お客さんに）「少しお待ちください。」	編集の具体的方針(2)による。
	104	上段 1	修正	「お（ご）ーになる」→「お…になる」「ご…になる」	編集の具体的方針(2)による。
	104	上段 3	修正	「ーれる（られる）」→「…れる」「…られる」	編集の具体的方針(2)による。
	104	下段 1	修正	「お（ご）ーする」→「お…する」「ご…する」	編集の具体的方針(2)による。
	106~ 119		修正	「たずねびと」 （欄外の語句は脚注とせず、本文中に注記符を入れ、題材末に列記する。）	編集の具体的方針(2)による。
	107	3	修正	（次のように脚注を起こす。） 楠アヤーポスターの名前の「アヤ」は、片仮名で書かれている。	編集の具体的方針(2)(3)による。
	123		修正	「漢字の広場 4年生で習った漢字2」 〔資料5-7〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	124	上段 6	修正	「漢字の読み方と使い方」 （L2~L5の箇条書きにナンバリングをし、6行目を次のように修正） （1）~（4）の各文の「 」で示した部分はそれぞれ同じ漢字です。このように、漢字には複数の音を持つものがあります。	編集の具体的方針(3)による。

5年	124	下段	修正	<p>(1の課題文と例を次のように修正)</p> <p>1. 次の(1)～(4)の「 」のついた部分もそれぞれ同じ漢字です。</p> <p>(例)</p> <p>(1) 本「名」 「名」案 「名」人 大「名」</p> <p>(2) 「日」時 連「日」 休「日」 来「日」</p> <p>(3) 「正」面 公「正」 「正」式 「正」月</p> <p>(4) 「言」語 発「語」 無「言」 伝「言」</p>	編集の具体的方針(2)(3)による。
	125	上段 2～8	修正	<p>「漢数字の7」に「たな」, 夕方の「ゆう」に「ばた」という読みはありません。それなのに, 「漢数字の7」と夕方の「ゆう」を書いて「たなばた」と読むのはなぜでしょう。古く, 中国語では七月七日の夜のことを「しちせき」(漢数字の7, 夕方の夕)と表していました。日本語の「たなばた」にこの漢字二字を当てたところから, 特別な読み方が生まれたのです。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	130	下段 1	修正	<p>「よりよい学校生活のために」</p> <p>(「ふせんを使って書き出した例」を「紙に書き出した例」とし, 「現状と問題点」, 「解決方法」, 「理由」にナンバリングをする。)</p>	編集の具体的方針(2)による。
	131	下段 2	修正	<p>「…書き出したふせん…」を「…書き出した紙…」に修正。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	132	下段	修正	<p>(「ふせんを使って…する例」を「紙に書き出して…する例」とし, 図を資料のように修正)</p> <p>[資料5-8]</p>	編集の具体的方針(2)による。
	135	上段 1	修正	<p>「目にしたとき」を「聞いたとき」に修正。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	136		修正	<p>漢字の広場 4年生で習った漢字3</p> <p>[資料5-9]</p>	編集の具体的方針(2)(3)による。
	138～ 145		修正	<p>「固有種が教えてくれること」</p> <p>(欄外の語句は脚注とせず, 本文中に注記符を入れ, 題材末に列記する。)</p>	編集の具体的方針(2)による。
	139～ 141		削除 修正	<p>(資料1の地図は削除。表は修正し, P140L3の後に挿入。資料2の図1～4・地図は削除し, 地質時代の区分を修正してP142L3の後に挿入。)</p> <p>[資料5-10]</p>	編集の具体的方針(2)による。
	140	12	削除	<p>「資料2を見てください。」は削除。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	142～ 145		削除	<p>(資料3～7は削除)</p>	編集の具体的方針(2)による。
	146	2	修正	<p>「文章と図表やグラフ, 写真を…」を「文章と図表などを…」に修正。</p>	編集の具体的方針(2)による。
	146	下段 12	修正	<p>「…このグラフが…」→「…この表が…」に修正。</p>	編集の具体的方針(2)による。

5年	147	上段 6	修正	点字 32 マス 9 行 (150 字)	編集の具体的方針(6)による。	
	147	下 11	修正	「図表やグラフ、絵、写真などが…。」を「図表やグラフなどが…。」に修正。	編集の具体的方針(2)による。	
	148			「統計資料の読み方」 (グラフと表は資料のように修正) [資料 5-11]	編集の具体的方針(2)による。	
	150～ 151		修正	(白石さんが集めた資料) <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="padding: 5px;"> (1) 2006 年から 2015 年までのごみの総排出量の推移 (2) 小学 5 年生と、働く人の、平日の生活時間の平均 (平成 28 年と平成 13 年の比較) (3) 1975 年と 2017 年の日本の年齢別人口の比較 (4) 1999 年度から 2016 年度までの固定電話と携帯電話 (携帯電話など) の加入数の推移 </td> </tr> </table> 白石「『ごみの総排出量の推移』の表を使って、ぼくの考えを説明しよう。」	(1) 2006 年から 2015 年までのごみの総排出量の推移 (2) 小学 5 年生と、働く人の、平日の生活時間の平均 (平成 28 年と平成 13 年の比較) (3) 1975 年と 2017 年の日本の年齢別人口の比較 (4) 1999 年度から 2016 年度までの固定電話と携帯電話 (携帯電話など) の加入数の推移	編集の具体的方針(2)による。
	(1) 2006 年から 2015 年までのごみの総排出量の推移 (2) 小学 5 年生と、働く人の、平日の生活時間の平均 (平成 28 年と平成 13 年の比較) (3) 1975 年と 2017 年の日本の年齢別人口の比較 (4) 1999 年度から 2016 年度までの固定電話と携帯電話 (携帯電話など) の加入数の推移					
	152～ 153	8～	修正	「グラフや表を用いて書こう」 (作文は左ページに、欄外に記載されている事項は右ページに、見開きにして掲載。欄外に記載されている事項はナンバリングをし、作文の該当か所に傍線番号 (第 3 指示符を用いる) を付して対応させる。) (作文の 2 段落目の 4 文を次のように修正し、2 文目の後に表「ごみの総排出量の推移」を挿入) 表は、家庭や会社から出るごみの排出量を示したものです。一人 1 日当たりの排出量と、日本全体の排出量を表しています。これを見ると、どちらもだんだん排出量が減ってきていることがわかります。一人 1 日当たりの排出量がいちばん多い 2006 年と 2015 年の 1 日当たり排出量を比べてみましょう。」 (表は、資料のように掲載) [資料 5-12]	編集の具体的方針(2)による。	
153	2	修正	「…グラフを…」を「…表を…」に修正。	編集の具体的方針(2)による。		
154～ 155		修正	「古典芸能の世界一語りで伝える」 (「落語の仕草」の写真・キャプション・QR コードは削除し、仕草を資料のように文章化した。) [資料 5-13]	編集の具体的方針(2)による。		

5年	156～ 157		修正 追加	「カンジ博士の暗号解読」 ●→○の伏字 (㊦) ▲→△の伏字 (㊧) ■→□の伏字 (㊨) (題材末に次の内容を付け加えた。) △(伏せ字の三角)の使い方に気を付けましょう。 □(伏せ字の四角)の使い方に気を付けましょう。 <>(第2カギ)の使い方に気を付けましょう。	編集の具体的方針(2)による。
	156	下段 9	修正	(③を次のように修正) (3) 漢字が分からないときは、国語辞典で調べよう。	編集の具体的方針(2)による。
	158～ 159		修正	「古典の世界(二)」 現代仮名遣いで表記し、脚注で歴史的仮名遣いを示す。	編集の具体的方針(5)による。 章句が短く、また、脚注を読む練習も兼ね、歴史的仮名遣いを文節で取り出し、脚注で示した。
	160		修正	「漢字の広場 4年生で習った漢字4」 〔資料5-14〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	162		削除	「やなせたかし—アンパンマンの勇気」 P170以外の写真とキャプションは削除。	編集の具体的方針(2)による。
	173	上段 4	修正	点字32マス11行(200字)	編集の具体的方針(6)による。
	178～ 179		修正	「あなたは、どう考える」 意見文の下に記載されている見出しはナンバリングをし、意見文の該当段落を付記して作文の前にまとめて挿入。	編集の具体的方針(2)による。
	183	上段 10		「生活の中で詩を楽しもう」 詩は現代仮名遣いで書き表す。	編集の具体的方針(5)による。
	183	下段 8	修正	「詩に合った絵をそえたりしてもいいですね。」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	184		修正	「方言と共通語」 方言分布図は省略し、図の内容を説明した。 〔資料5-15〕	編集の具体的方針(2)による。
	186		修正	漢字の広場 4年生で習った漢字5 〔資料5-16〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	189		修正	「想像力のスイッチを入れよう」 (図①～図③を点図で掲載し、次の場所に挿入) 図①・② P189L8「しかし」の前 図③ P189L11段落末	編集の具体的方針(2)による。
	201	上段	修正	「複合語」 音の高さを点図で示す。	編集の具体的方針(2)による。
	204		修正	「伝わる表現を選ぼう」 (囲み内のやり取りの状況を、次のように加筆・修正) 粘土で花瓶を作っている今村さんに田中さんが声をかけました。 田中「わあ、独特だね。(すてきだな。)」 今村「えっ、変かな。」 田中(どうしよう。そんなつもりで言ったのではなかったのに。)	編集の具体的方針(2)による。

5年	208		修正	「下書きの例」の右に記載されている事項は、ナンバリングをして「下書きの手順」としてまとめ、「下書きの例」の前に挿入。	編集の具体的方針(2)による。
	209	下段 1	修正	吹き出しの書き出しを「墨字では、」とする。	編集の具体的方針(2)による。
	213	下段	修正	「提案しよう、言葉とわたしたち」 下段に記載されている事項は、「スピーチの構成の例」としてまとめ、P212の最終行後に挿入。	編集の具体的方針(2)による。
	213	下段	修正	〔資料5-17〕 吹き出しを「提案のタイトルは、印象に残るようにしよう。」とし、資料1・資料3掲載後に掲載。	編集の具体的方針(2)による。
	214		修正	「スピーチの例」の傍線部は第3指示符を用いる。朱書きの語句と傍線部分の語句とを対応させ、原稿の後に列記する。	編集の具体的方針(2)による。
	217	上段 6~8	修正	「日本語の表記」 「飼料」と「資料」を削除し、次のように示す。 (例) 馬の「しりょう」をさがす。(家畜に与える食物。) 馬の「しりょう」をさがす。(あることを行うために役立つもの。)	編集の具体的方針(2)による。
	217	下段	修正	(吹き出しを次のように修正) 「『おやまえき』は漢字でどう書くのかな。」	編集の具体的方針(2)による。
		下段 1~5	修正	「1 次の俳句を…」以下を次のように修正。俳句は削除。 「文字によって受ける印象がどう変わるか、話し合みましょう。」	編集の具体的方針(2)による。
		下段 8~9	修正	「…考えながら、仮名や漢字を使いましょう。」を「…考えながら書きましょう。」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	218		修正	漢字の広場 4年生で習った漢字6 〔資料5-18〕	編集の具体的方針(2)(3)による。
	220 237	8	修正	「大造じいさんとガン」 「ガンがり」を脚注扱いとする。	編集の具体的方針(2)による。
	238	下段	修正	(ノートの例) 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 場面1 (残雪の様子や行動—大造じいさんの心情) 仲間がえをあさっている間も、油断なく気を配っている。—りこうなやつ いまいましい つりばりを飲みこまないように仲間を指導した。 —感嘆 たいしたちえをもっているものだなあ。 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。

5年	242	下段 4	修正	「くうらんに書きましょう。」を「書きましょう。」に修正。	編集の具体的方針(2)による。
	248～ 249			「考えを図で表そう」 〔資料5-19〕	編集の具体的方針(2)による。
	250～ 251		削除	「点字と手話」 写真とキャプション、「点字のあいうえお」は削除。	編集の具体的方針(2)による。
	252～ 253		修正	「手話」の後に「指文字のあいうえお」を掲載。手話の例とキャプションは削除。「指文字のあいうえお」の図は削除し、文章化。 〔資料5-20〕	編集の具体的方針(2)による。
	254(2) 255(1)		修正 削除	「ローマ字について」 「ローマ字の表」は掲載する。 「〔 〕の書き方も使うことができる。」を「2行目の書き方も使うことができます。」に修正。 アルファベットの字形は3年で掲載し、5年では掲載しない。	編集の具体的方針(7)による。
	256～ 257		修正	「通信文のいろいろ」〔資料5-21〕 「1 手紙」とし、その後にページ内右下に記載されている事項を(手紙の型)として挿入。点字の手紙の書き順について加筆する。 2 ファクシミリ・電子メール (ファクシミリ通信文)(電子メール)の(例)の前にそれぞれ「次のことに注意します」として、ページ内左に記載の事項を入れる。△*の部分は削除(電話番号、ファクシミリ番号、電子メールアドレスと書く)。	編集の具体的方針(2)による。
	258		修正	「インタビュー」 インタビューの仕方の評価を示す△・○の符号を削除し、次のように修正。 「米作りはどうですか。」というようなあいまいな質問は答えにくいので、次のように具体的にきく。「米作りをされていて、いちばんうれしいのはどんなときですか。」(以下二つの質問も同様)	編集の具体的方針(2)による。
	259		修正	下段は(インタビューの例)とし、傍線部分をそれぞれ第3指示符で示す。上段の青囲みの文の後に、インタビュー例の傍線か所のページと行をそれぞれ記載する。	編集の具体的方針(2)による。
	265	下段	削除	「本の世界を広げよう」 「読み終わった…印を付けましょう。」は削除。	編集の具体的方針(2)による。

5年	265		修正	(例) 「・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・」 「カレーライス」の人物分析 「ひろし」は、 <input type="text"/> な人物。 (1) 関係 ひろし(ぼく)－意地を張る→お父さん、お母さん お父さん－いつまでも子どもあつかい→ひろし(ぼく) お母さん－いつもお父さんのみかた→ひろし(ぼく) (2) 根拠になる本文 「うげえっ、そんなの…」 ・・・ 「・・・・・・・・・・・・・・・・」	編集の具体的方針(2)による。												
	268	下段 12	修正	「雪の夜明け」 ①の「にこ毛」は番号なしの脚注とする。	編集の具体的方針(2)による。												
	270～ 271		修正	「天気を予想する」 ①～③の語句は番号なしの脚注とする。	編集の具体的方針(2)による。												
	270	上段	2	「左の表」を「表1」とし、P270 下段L5の後に挿入。	編集の具体的方針(2)による。												
	271	下段 9	修正	「次のページのグラフ」を「表2」とし、P272のグラフを次のように修正してP271 下段L17の後に挿入。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td colspan="2">表2 1時間に50ミリメートル以上の雨が観測された回数(10年平均)</td> </tr> <tr> <td>年</td> <td>回数</td> </tr> <tr> <td>1976～1985</td> <td>174回</td> </tr> <tr> <td>1986～1995</td> <td>184回</td> </tr> <tr> <td>1996～2005</td> <td>223回</td> </tr> <tr> <td>2006～2015</td> <td>230回</td> </tr> </table> (気象庁資料を再構成。1年ごとの回数を示したグラフは省略)	表2 1時間に50ミリメートル以上の雨が観測された回数(10年平均)		年	回数	1976～1985	174回	1986～1995	184回	1996～2005	223回	2006～2015	230回	編集の具体的方針(2)による。
表2 1時間に50ミリメートル以上の雨が観測された回数(10年平均)																	
年	回数																
1976～1985	174回																
1986～1995	184回																
1996～2005	223回																
2006～2015	230回																

6年	10		修正	「ものの考え方、伝え方」 各項目に番号を付し記載。	編集の具体的方針(2)による
	12	下部	削除 修正	「つないで、つないで、一つのお話」 挿絵を削除し、挿絵内セリフのみ、本文後に挿入。	編集の具体的方針(2)による
	14		修正	「春の河」 現代仮名遣いで表記。	編集の具体的方針(5)による

6年	16	下部	修正	「気になるニュースを集めよう」 ニュースの記録の書き方を修正。 〔資料6-1〕	編集の具体的方針(2)による								
	33	下部	修正	「帰り道」 読書記録の書き方の例を修正。 〔資料6-2〕	編集の具体的方針(2)による								
	34～35	下部	修正 削除	「地域の施設を活用しよう」 図書館・文学館の写真とその説明を削除、博物館・資料館は写真を削除し説明文を修正してP34上段の文末に記載、記録カードの書き方を修正。 〔資料6-3〕	編集の具体的方針(2)による								
	36～37		修正	「漢字の形と音・意味」 〔資料6-4〕	編集の具体的方針(2)(3)による								
	38		修正 削除	「春のいぶき」 上部インデックスと写真を削除、短歌は現代仮名遣いで表記。	編集の具体的方針(2)(5)による								
	41		修正	「聞いて考えを深めよう」 話題の例「外国の映画は字幕で見るのがよい」を「物語を味わうには映画より本がよい」に修正。	編集の具体的方針(2)による								
	44		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字1」 〔資料6-5〕	編集の具体的方針(2)(3)による								
	46～47	欄外	修正	「笑うから楽しい」 欄外事項の記載位置の修正。 欄外の青●は1.～4.として文末に記載	編集の具体的方針(2)による								
	50	下部	修正	「時計の時間と心の時間」 実験①のグラフを表に修正。 <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td>朝(朝食前)</td> <td>36秒</td> </tr> <tr> <td>正午ごろ</td> <td>32秒</td> </tr> <tr> <td>午後5時ごろ</td> <td>30秒</td> </tr> <tr> <td>夜(寝る前)</td> <td>35秒</td> </tr> </table>	朝(朝食前)	36秒	正午ごろ	32秒	午後5時ごろ	30秒	夜(寝る前)	35秒	編集の具体的方針(2)による
	朝(朝食前)	36秒											
	正午ごろ	32秒											
	午後5時ごろ	30秒											
	夜(寝る前)	35秒											
	50	10	修正	「実験①のグラフは」を「実験(1)の表は」に修正。	編集の具体的方針(2)による								
	51	下部	修正 削除	実験②の画面は点図で表した。	編集の具体的方針(2)による								
	55	下部	修正	発表の例の欄外の「自分の考え」「理由や具体例」「まとめ」を()で囲み、それぞれの該当する段落末に挿入。	編集の具体的方針(2)による								
57	上部	修正	「主張と事例」(図を修正) 〔資料6-6〕	編集の具体的方針(2)による									
61		修正	「たのしみは」 短歌は現代仮名遣いで表記	編集の具体的方針(5)による									
62	1	修正	(「2.短歌を作ろう」の文の修正) …の三十一音で表しましょう。促音や長音、撥音も、1音と数えます。	編集の具体的方針(2)による									
62	10	修正	(「4.短冊に書いて、読み合おう。」の文の修正) 4.短冊に貼って、読み合おう。 作った短歌を書いて、短冊に貼って、グループで…	編集の具体的方針(2)による									
63	右端	削除	空欄付の短冊は削除	編集の具体的方針(2)による									

6年	64	1	修正	「文の組み立て」 カードの絵を削除し、冒頭の文を修正。 「木を」「植えた」「庭に」「ぼくは」「昨日」と書かれたカードを並べかえて、意味の通る文を作り、	編集の具体的方針(2)による
	65	上部	削除	図を削除	編集の具体的方針(2)による
	66～67		修正	「天地の文」 現代仮名遣いで表記し、歴史的仮名遣いは本文末に記載。 〔資料6-7〕	編集の具体的方針(5)による
	68	下部	修正 削除	「情報と情報をつなげて伝えるとき」(図を削除し、例文を修正) 〔資料6-8〕	編集の具体的方針(2)による
	74	左端	修正	「私たちにできること」 提案書の後、左端の赤枠の項目を()で囲み、それぞれの該当する段落末に挿入。	編集の具体的方針(2)による
	76		修正 削除 追加	「夏のさかり」 上部インデックスを削除、俳句は現代仮名遣いで表記、「芒種」の説明文に追加。 芒種(6月6日ごろ)－「のぎ(ぼう)」とは、	編集の具体的方針(2)(5)による
	79		修正 削除	「私と本」 囲み枠内の文に番号を付けて記載。「写真や絵がきれいな本」を削除。	編集の具体的方針(2)による
	82	上部	修正 削除	ブックトークの例を修正。 〔資料6-9〕	編集の具体的方針(2)による
	83	上部	削除 修正	「森へ」 写真は削除、地図は点図化して記載。	編集の具体的方針(2)による
	98～99		修正	「利用案内を読もう」 〔資料6-10〕	編集の具体的方針(2)による
	100		修正	「熟語の成り立ち」 〔資料6-11〕	編集の具体的方針(2)による
	102		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字2」 〔資料6-12〕	編集の具体的方針(2)(5)による
	115		修正 削除	「イーハトーヴの夢」 写真削除。写真の説明文を修正し、本文末に記載。 〔資料6-13〕	編集の具体的方針(2)による
	117		追加	「曲尺」の意味を脚注で追加。 曲尺－「かね」は「きょく(ま__がる)」という漢字で表す。	編集の具体的方針(2)による
	124	3	修正	谷川の様子が分かるところを見つけよう。	編集の具体的方針(2)による
	124	8	修正	心を引かれる表現を抜き出し、情景を想像しよう。	編集の具体的方針(2)による
	130		修正 削除	「秋深し」 上部インデックスを削除、短歌・俳句は現代仮名遣いで表記。	編集の具体的方針(2)(5)による

6年	133	下部	修正 削除	「みんなで楽しく過ごすために」 挿絵を削除し、黒板に書かれている内容のみ記載。 〔資料6-14〕	編集の具体的方針(2)による
	138	下部	修正	「伝えにくいことを伝える」 挿絵を削除し、吹き出しを「 」で囲み、箇条書きに修正。	編集の具体的方針(2)による
	140		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字3」 〔資料6-15〕	編集の具体的方針(2)による
	143	14	修正	「『鳥獣戯画』を読む」 文章を修正	編集の具体的方針(2)による
	144	1		ためしにぱっとページをめくってみる。 どうだい、蛙が兔を投げ飛ばしたように動いてみえる。	※絵画や絵巻などを「見て」文章と照らし合わせながら考える教材である。視覚経験のない(または少ない)児童にとって、文章のみで本教材の目標を達成することは難しい部分が多い。指導に当たっては、児童の実態を踏まえた適切な工夫をされたい。
	149		修正	「『鳥獣戯画』と同じ時代に生まれた絵巻物」の写真は削除し、「信貴山縁起絵巻」と「伴大納言絵巻」の説明のみを掲載。	
	150	上段 1	修正	絵について書かれている部分から、次のことを読み取ろう。	
		下段 9	削除	つながっている絵を分けて示した効果。また、再度示した理由。	
	151	上段 11	削除	「写真や絵の使い方」を削除。	
	152	上段 6	修正	符号を付けたり、本文よりも少し下げたりして	編集の具体的方針(2)による
	153	上段 4	追加	「日本文化を発信しよう」 文に「など」を追加 構成や絵、写真の見せ方などを工夫して	編集の具体的方針(2)による
	155	上段	削除	「ページの割り付けの例」図を削除し、内容のみ記載。 〔資料6-16〕	※絵や写真と文章の組み合わせを工夫して書く教材である。視覚経験のない(または少ない)児童にとって、本教材の目標を達成することは難しい部分が多い。指導に当たっては、児童の実態を踏まえた適切な工夫をされたい。
	155	下段	修正	「下書きの例」の朱書き部分は「訂正」として文末に記載。〔資料6-16〕	
	156		修正 削除	「紙面の例」写真を削除し、写真が掲載されていた箇所 に内容のみ記載。 一汁三菜のこんだて(写真) (だし・しょうゆ・みその写真)	
	156		修正	〈表紙・裏表紙〉 〔資料6-16〕	
	157	左端	削除	「ふりかえろう」の文を一部削除 読む 文章を読んだとき、どのようなことに気がつきましたか。 つなぐ 文章を読んだり書いたりするときにかした たいのは何ですか。	
160		修正	「カンジー博士の漢字学習の秘伝」 〔資料6-17〕	編集の具体的方針(2)(6)による	
162		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字4」 〔資料6-18〕	編集の具体的方針(2)(3)による	

6年	165		修正	「柿山伏」 現代語訳等は欄外注として掲載。ト書き、情景描写は前後2マスあけて第1カッコで表記。 例（P165上1） 山伏・貝をも持たぬ山伏が、貝をも持たぬ山伏が、道々うそをふこうよ。（と歌う。）これは出羽の羽黒山よりいでたる、かけ出の山伏です。 ——注—— かけ出の 一 山で修行を終えたばかりの	編集の具体的方針(2)による
	177		修正	「大切にしたい言葉」 字数の指定箇所点字のマス数を付記。 点字32マス44行(800字)程度	編集の具体的方針(2)(6)による
	178	3	修正	書き直したほうがいいと思うところを、書き出しましょう。	編集の具体的方針(2)による
	178	左端	削除	下書き例の朱書きは文末にまとめて記載。	編集の具体的方針(2)による
	181		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字5」 〔資料6-19〕	編集の具体的方針(2)(3)による
	182		修正	「冬のおとずれ」 上部インデックスを削除、短歌・俳句は現代仮名遣いで表記。	編集の具体的方針(2)(5)による
	186	上段	削除	「仮名の由来」 冒頭の一文と挿絵を削除。	編集の具体的方針(2)による
	186	下段	削除	漢字の形・音・意味の表を削除。	編集の具体的方針(2)による
	187	上段	削除	文中の万葉仮名・ひらがな・カタカナの例を削除。	編集の具体的方針(2)による
	188		削除 修正	平仮名・片仮名の起こりの表を削除、「ゐ・ゑ」についての文を修正し、P187の本文末に挿入。 古代にはア行の「い」「え」とワ行の「ゐ」「ゑ」の発音が区別されていたため、それに対応する仮名がありました。	編集の具体的方針(2)による
	201		修正 削除	「漢字を正しく使えるように」 上段の挿絵とセリフは削除、例の漢字は区別するため音または訓を追加。〔資料6-20〕	編集の具体的方針(2)による
	210	下段	修正	「思い出を言葉に」 〔資料6-21〕	編集の具体的方針(2)による
	214	下段	修正	「今、私は、ぼくは」〔資料6-22〕 矢島さんのスピーチ原稿の朱書きの部分を()で囲んで矢印部分に挿入、「聞き手の表情を見る」を「聞き手の反応を確かめる」に修正。	編集の具体的方針(2)による
	215	上段	削除	「聞き手の表情や様子などを確かめる」の「表情や」を削除。	編集の具体的方針(2)による
	216		修正	「漢字の広場 5年生で習った漢字6」 〔資料6-23〕	編集の具体的方針(2)(3)による
	234		修正 削除	「中学校へつなげよう」 記入欄を削除、各項目に番号を付して記載。	編集の具体的方針(2)による
	252	上段	修正	「課題の見つけ方、調べ方」 図を修正。 〔資料6-24〕	編集の具体的方針(2)による

6年	253		修正 削除	矢印を削除し、項目に番号を付して記載。	編集の具体的方針(2)による
	254～ 255		修正	「考えを図で表そう」(各図表を修正) 〔資料6-25〕	編集の具体的方針(2)による
	258	上段 5	追加	「言葉の交流」 墨字では」を追加。 外来語と呼ばれ、墨字では普通は片仮名で書きます。	編集の具体的方針(2)による
	262～ 263		修正	「対話を通して学び合う」 「立場を決めて討論する」の挿絵内のセリフのみ、賛成グループ、反対グループとして記載。 反対グループ「私は、学級文庫にまんがを・・・」 賛成グループ「まんがには、学習に役立つ・・・」	編集の具体的方針(2)による
	264	上段 3 上段 7 下段 6	修正 追加	「デジタル機器を使って、プレゼンテーションをしよう」(文を修正) 資料を見てほしいときは、見てほしい部分をはっきり伝えるなどして・・・ 提示している資料ではなく、聞き手の方を見るようにする 後ろの席からも見えるように・・・	編集の具体的方針(2)による
	306		修正	「表彰状」 〔資料6-26〕	編集の具体的方針(2)による